

# 函館市観光基本計画

函 館 市

## は じ め に

本市においては「豊かな自然につつまれた住みよい魅力ある都市」を基本目標として、地域が一丸となってまちづくりを進めております。

さらに、世紀の事業である青函トンネルの完成が近づき、交通体系の変革が予想されているほか、「テクノポリス函館」構想にみる新たなまちづくりへの取組みを始めようとしております。

このように、21世紀へ向けて大きく飛躍しようとする中で、美しい自然と豊かな歴史的文化遺産等を擁する本市にとって、観光の果たす役割は極めて重要であります。

観光は、人間性の回復と人間生活の向上に欠かせないものとなっており、地域の経済をはじめ、社会、生活基盤の整備や文化の向上などにも多大の効果を及ぼすものであります。

こうした観点から、このたび、本市の特性を活かした個性豊かな魅力ある観光都市づくりの指針とするため、「函館市観光基本計画」を策定したところであります。

今後、この計画の実現にあたっては最善の努力を傾注する所存ではありますが、国・道及び関係市町村、関係機関・団体、観光関連業界の一層のご理解とご支援を願うとともに、市民各位のご理解とご協力を切望するものであります。

おわりに、本計画の策定にあたっては、観光アンケート調査や観光懇話会などにおいて、多くの市民の方々から特段のご協力をいただきましたほか、函館市観光基本計画検討委員会等関係各位から貴重なご意見、ご指導をいただきましたことを衷心より厚くお礼申上げる次第であります。

昭和57年 7月

函館市長 矢 野 康

## 函館市観光基本計画検討委員会委員名簿

(氏名)	(所属機関・団体)
会長 鈴木 武二	函館観光協会会長
委員 関 輝夫	函館市文化団体協議会副会長
” 大野 和雄	函館大学教授
” 奥平 忠志	北海道教育大学函館分校教授
” 山内 高一	青函船舶鉄道管理局営業部長
” 沼崎 弥太郎	函館商工会議所観光サービス部会長
” 水谷 二郎	函館旅行業協会会長
” 鷲見 幸一	函館市町会連合会会長
” 安達 謙三	渡島支庁経済部長
” 諏藤 猛	函館市助役

(敬称略)

## 目 次

はじめに	
第 1 章 序 説	9
第 1 計画の目的	9
第 2 計画の性格	9
第 3 計画の目標	10
第 4 計画の期間	10
第 2 章 函館市の観光の現況と問題点	13
第 1 函館市の観光の現況	13
1 函館市の概況	13
(1) 沿革	13
(2) 自然条件	13
(3) 人口と産業	14
(4) 都市機能と交通体系	16
2 函館市の観光の現況	22
(1) 観光客の入込み	22
(2) 観光ルート	26
(3) 観光資源・施設	31
(4) 宿泊施設	36
第 2 函館市の観光の問題点と課題	37
1 函館市の問題点と課題	37
(1) 観光資源・施設	37
(2) 宿泊施設	38
(3) 交通体系	39
(4) 観光宣伝と観光サービス（接遇、行事、物産）	40
2 函館市周辺地域の問題点と課題	41
第 3 章 基本計画	45
第 1 計画の基本方針	45

第2	観光資源・施設整備計画	46
1	拠点別整備	46
	(1) 函館駅前周辺地区	46
	(2) 西部地区	48
	(3) 函館山地区	53
	(4) 五稜郭周辺地区	54
	(5) 湯の川周辺地区	56
	(6) その他地区	57
2	その他整備	58
	(1) 水族館の建設	58
	(2) 幹線道路の整備	58
	(3) 函館空港の整備	58
3	函館市周辺地域整備	58
第3	広域観光圏と観光ルート	60
1	広域観光圏の形成	60
2	広域観光ルートの設定	62
3	観光コースの設定	64
第4	観光宣伝の強化	65
第5	接遇の充実とまちの美化	66
第6	観光行事と物産	67
1	観光行事	67
2	観光土産品と味覚	67
	(1) 観光土産品	68
	(2) 郷土料理	68
第7	計画の推進にあたって	69
1	計画の推進	69
2	観光関係団体の育成	69
3	需要予測	70
4	所要資金	70

# 第 1 章 序 說

# 第1章 序 説

## 第1 計画の目的

この計画は、観光振興が地域経済に及ぼす重要性にかんがみ、四季を通じた魅力ある国際的観光都市の形成を志向し、これを達成しようとするものである。

近年、我が国経済情勢の急激な変動はさまざまな形で地域社会に影響を与え、特に本市では造船不況に続く漁業専管水域200海里問題などにより、厳しい社会経済環境に置かれている。

こうした中で青函トンネルの開業をはじめ、将来における北海道新幹線や北海道縦貫自動車道の建設など、高速交通体系の整備は、本市の経済などに大きな影響をもたらすものと思われ、とりわけ観光における著しい変化が予想されるため、本市の持つ地理的優位性、恵まれた自然環境、歴史と伝統を誇る文化遺産などの有効活用を図り、関連する諸計画との整合に努めながら実効ある計画を策定し、魅力あるまちづくりを目指して総合的見地から諸施策を推し進め、もって地域の発展に寄与しようとするものである。

## 第2 計画の性格

この計画は、函館市基本構想を基調として、長期的、広域的視野から観光施策の方向を示すものである。

また、実施にあたっては、関係市町村の協力を得ながら目標の達成に努めるとともに、国、道に対しても積極的な施策の展開を要望し、まちづくり計画の中で具現化を図るものとする。一方、民間企業においては、本計画を指針として資本の意欲的な導入などをはかり、もって地域経済の振興に寄与されるよう期待するものである。

### 第3 計画の目標

地域の発展と市民福祉の向上に資するため、開港にまつわる歴史的文化遺産をはじめ、本市特有のまち並みや恵まれた自然と優れた景観を有する函館山など、観光資源の積極的な活用を展開するほか、大規模観光関連施設の整備を促進するとともに、新たな文化の創造などにより通年観光を志向し、個性豊かな魅力ある国際的観光都市の形成を図る。

#### 目標とする観光都市像

- ・ 南北海道観光圏の中核拠点として複合機能を有する観光都市
- ・ 地域経済の発展に寄与する活力ある観光都市
- ・ 快適な生活環境を備えた観光都市
- ・ 国際化を志向する文化的な観光都市

### 第4 計画の期間

この計画の期間は、長期的展望の見地から、昭和57年度から昭和70年度までとする。



## 第 2 章 函館市の観光の現況と問題点

## 第2章 函館市の観光の現況と問題点

### 第1 函館市の観光の現況

#### 1 函館市の概況

##### (1) 沿革

函館市は、我が国最初の貿易港として海外に大きく門戸を開くとともに、北海道開拓の拠点として、あるいは北洋漁業の根拠地として繁栄の道を歩んできた。また、本市は、戊辰の役終結の地として近代日本の幕開きを告げた貴重な歴史を有している。

大正11年の市制施行時には、北海道の最重要都市としての地位にあり、順調に発展してきた。その後、第2次世界大戦により北洋漁業権益を失うとともに関連する産業の衰退などがあったが、長年にわたる社会的、経済的な蓄積や北海道と本州を結ぶ交通の要衝としての優位性を生かし、比較的安定した成長を続けてきた。

昭和30年代後半から40年代に至る我が国の高度経済成長期には、本市域の経済活動も活発化し、公共の大型プロジェクトである空港の拡張をはじめ、流通施設、社会福祉施設などの整備が進められ、民間投資も大きく行われたが、48年後半の石油危機を契機に一連の不況と長期にわたる低成長経済を迎えるに至り、厳しい環境におかれてきた。

しかしながら、近年、函館駅前再開発事業をはじめ、港湾整備計画など各大型プロジェクトの推進とともに、テクノポリス構想における調査対象地域として指定を受けるなど、将来に向けての飛躍が一段と期待されている。

##### (2) 自然条件

本市は、北海道南部、渡島半島の南東部に位置し、中心市街地を要に北側に扇状形の広がりを見せており、三方は海に臨み津軽海峡を隔てて青森県と

相對している。この広がりの中に上磯、大野、七飯の3町が連なって函館圏を形成しており、その中央部は南北海道最大の函館平野となっている。また、背梁部には函館圏最高峰の横津連山がある。

気象条件は、北海道にあっては比較的温暖であり、積雪量も少なく恵まれた環境にある。

1表 函館市の気象概況

年次	気 温 (°C)			降 水 量 (mm)	最深雪量 (cm)	平均湿度 (%)	平均風速 (m/s)
	最 高	最 低	平 均				
昭和 53年	32.2	-16.1	8.8	937.5	45	73.0	2.4
54年	30.8	-14.1	8.9	1,264.5	42	73.0	2.6
55年	27.8	-13.6	8.2	1,144.0	38	72.1	2.7

資料 函館海洋気象台

### (3) 人口と産業

本市の人口は、昭和55年国勢調査によると320,154人で、50年(国勢調査)に比し4.1%と漸増傾向を示しており、道内で三番目の都市となっている。

2表 函館市の人口

年次	世帯数	人 口		
		総 数	男	女
	世帯	人	人	人
昭和45年	83,921	292,286	138,356	153,930
50年	96,723	307,453	145,386	162,067
55年	107,538	320,154	151,468	168,686

資料 国勢調査

産業構造については、第1次産業、第2次産業共に減少し、第3次産業が増加している。第1次産業は各産業とも減少しているが、特に農業就業人口の減少が著しく、第2次産業では建設業就業人口の伸びが見られるなかで、鉱業、製造業の落ち込みが著しく、全体では減少となっている。第3次産業は73.9%と特化が著しく、消費型となっている。

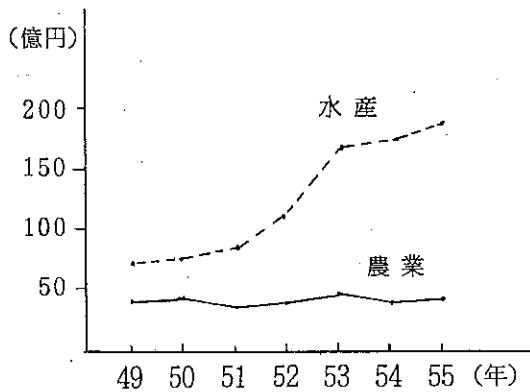
3表 函館市の産業別就業者数

年次	総数	産業別			
		第1次	第2次	第3次	分類不能
	人	人	人	人	人
昭和45年	133,244 (100.0%)	7,681 (5.8%)	35,087 (26.3%)	90,388 (67.8%)	88 (0.1%)
50年	133,541 (100.0)	5,725 (4.3)	33,150 (24.8)	94,501 (70.8)	165 (0.1)
55年	138,895 (100.0)	5,005 (3.6)	31,300 (22.5)	102,568 (73.9)	22 (0.0)

資料 国勢調査

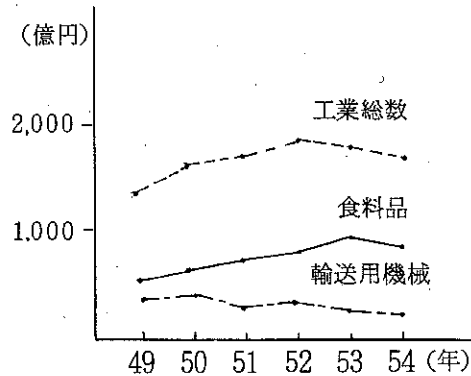
産業について見ると、農業では家畜飼養と水稻、そ菜が中心となっているが、農地面積が減少し、また離農傾向が著しい。水産業は、沿岸漁業を主体としており、近年は浅海増養殖事業による栽培漁業が盛んであるが、経営は零細性を示している。工業は、水産加工および造船を中心に多種多様な業種で構成されており、53年の製造品出荷額1,924億円のうち、食料品製造業と輸送用機械器具製造業が68.9%を占めている。しかし、そのほとんどが中小企業で、造船業の低迷や漁業の200海里問題などによる影響を大きく受けている。

1図 農業・水産業の生産額の推移



資料 農林省函館統計情報事務所  
北海道水産統計

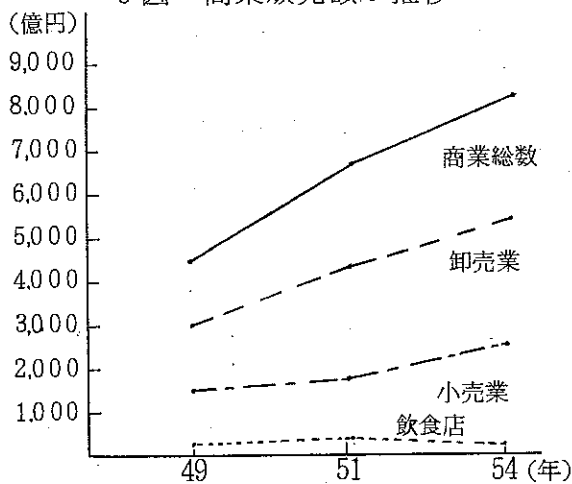
2図 工業出荷額の推移



資料 工業統計調査

商業については、商圈がほぼ南北海道全域に及んでおり、卸売業販売シェアでは95.0%、小売業販売シェアでは66.2%と大きいですが、最近域外からの侵蝕や大型店の進出による影響が現われている。

3 図 商業販売額の推移



資料 商業統計調査

4 表 年次別飲食店の商店数・従業者数・年間販売額の推移

	商店数	従業者数	年間販売額
昭和49年	2,105	9,053	174
51年	2,375	9,879	260
54年	2,822	5,989	224

資料 商業統計調査

注) 昭和54年の従業者数・年間販売額には、バー・キャバレー・ナイトクラブ・酒場およびビヤホールを含んでいない。

5 表 年次別商店数・従業者数・年間販売額の推移

	総 数			卸 売 業			小 売 業		
	商店数	従業者数	年間販売額	商店数	従業者数	年間販売額	商店数	従業者数	年間販売額
昭和49年	5,406	28,704	4,351	1,016	10,545	2,925	4,390	18,159	1,426
51年	5,806	31,744	6,563	1,268	11,615	4,491	4,538	20,129	2,072
54年	6,006	31,562	8,327	1,310	11,908	5,788	4,696	19,654	2,539

資料 商業統計調査

注) 飲食店を除く

#### (4) 都市機能と交通体系

本市は、恵まれた条件のもとに、港湾、商工業などの基盤が築かれ、管理機能や運輸・通信機能の集積が行われてきた。こうした都市基盤の上に立っている本市の交通体系は、道路では札幌を結ぶ国道5号線をはじめ、松前、江差方面を結ぶ国道228号線、227号線、恵山方面を結ぶ国道278号線のほか、道道18の路線などが放射状に伸びており、現在もこれら幹線の整備が進められている。

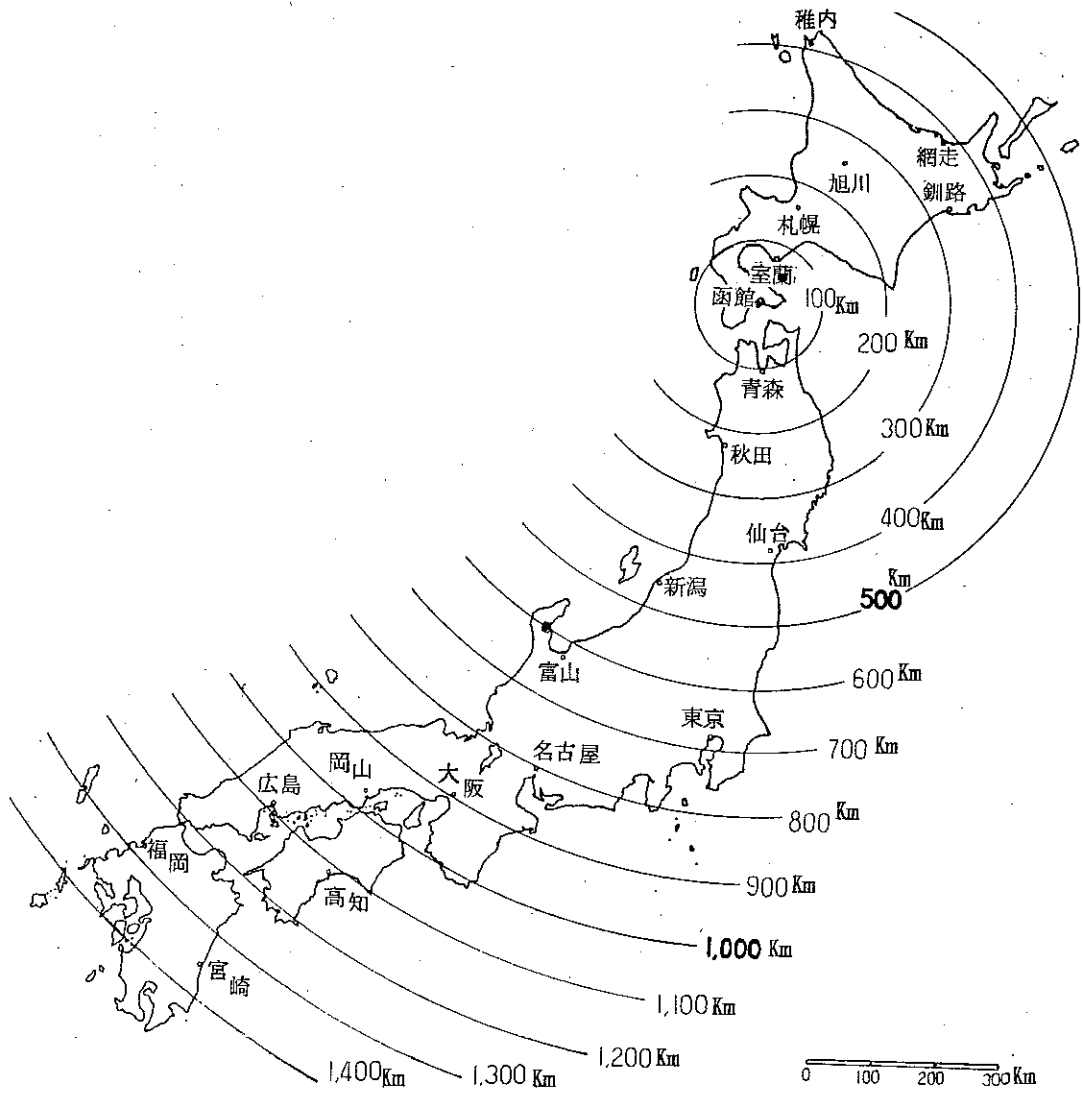
鉄道については、函館を起終点として道内の主要路線である函館本線をは

じめ、西側臨海部に沿って江差、松前線があり、海上では本州とを結ぶ国鉄青函航路があるほか、青森、野辺地、大間へ向う民間フェリー3航路がある。

また、航空路は東京、名古屋、仙台並びに札幌、奥尻を結ぶ5路線がある。

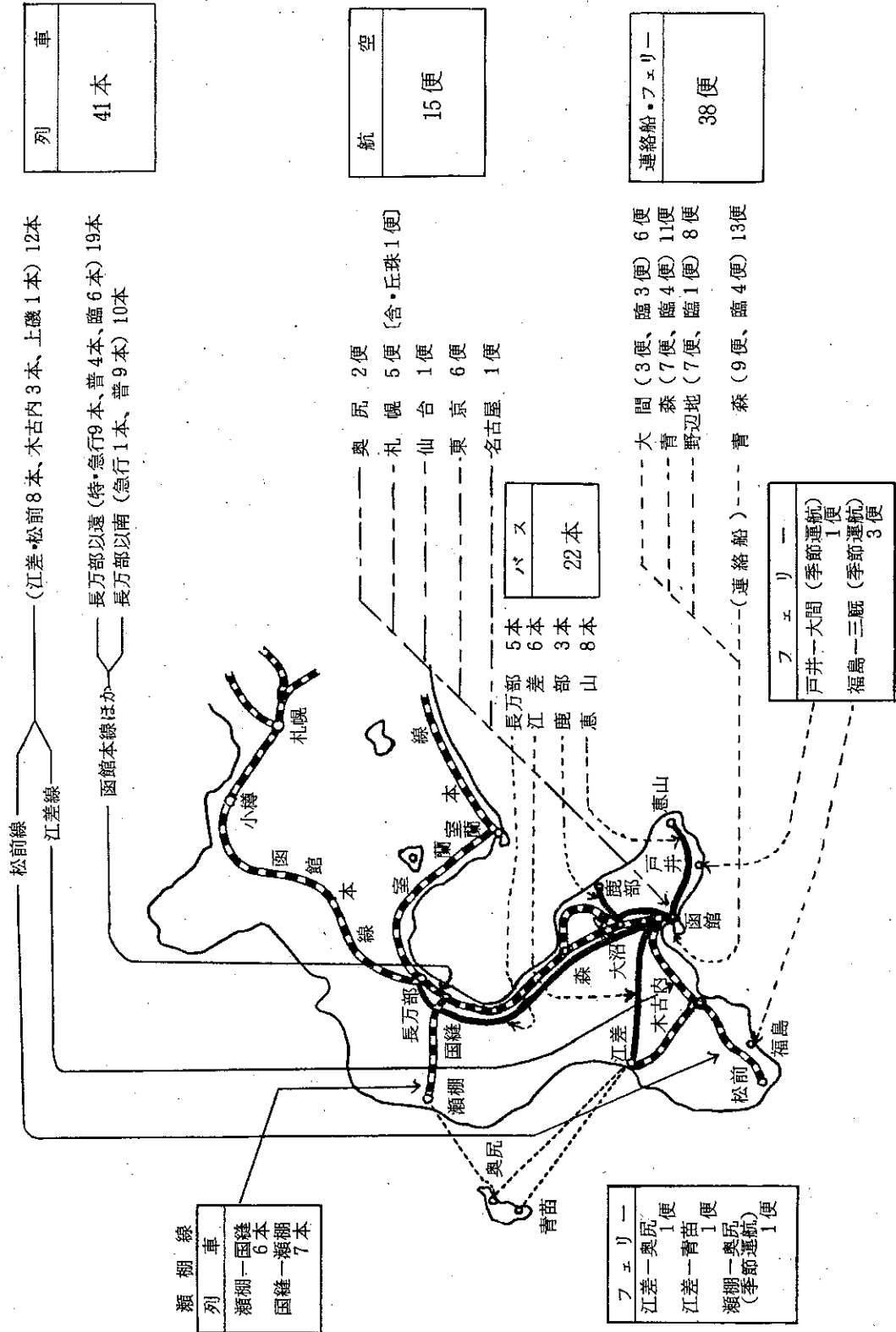
一方、現在進行中の青函トンネルは、当面、在来線利用による昭和60年度開業が予定され、北海道新幹線の建設は遅れる見通しとなっている。また、北海道縦貫自動車道の建設計画や本市の湾岸道路建設計画などがあり、将来、交通体系は大きな変革を迎えることと思われる。

4 函 函館市を中心とした距離図



5 函 函館へ乗入れの交通機関現況

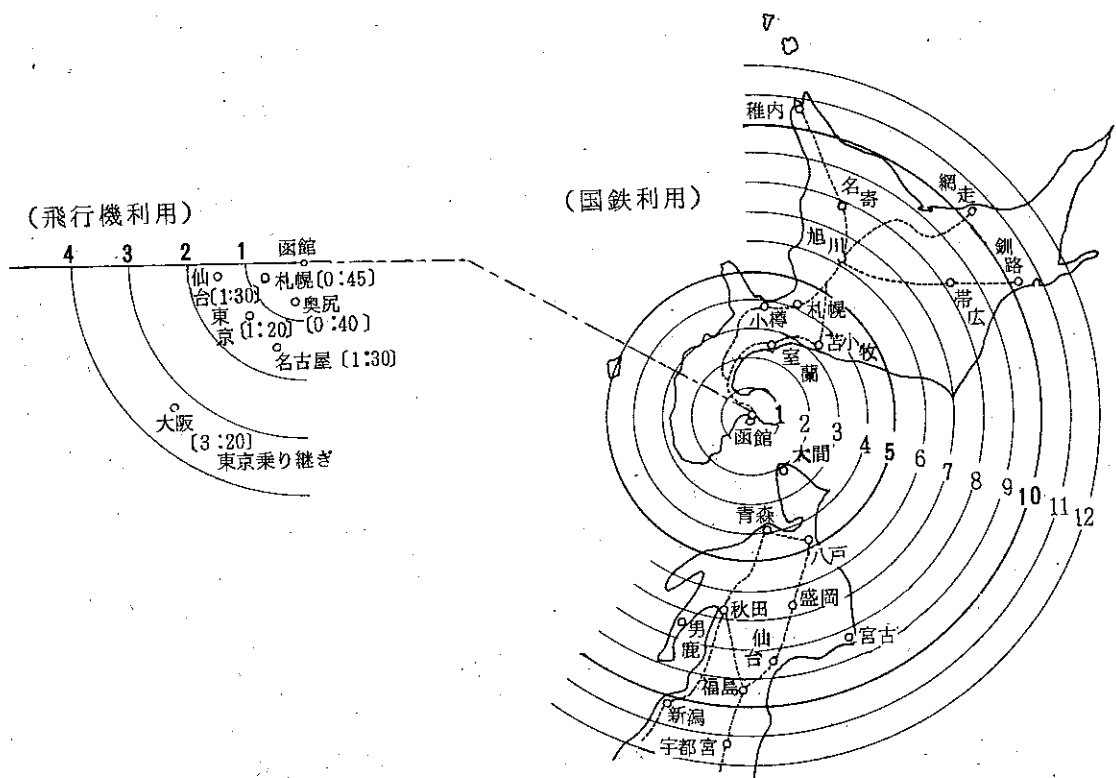
(昭和56年8月現在)





6 函 函館市を中心とした時間距離図

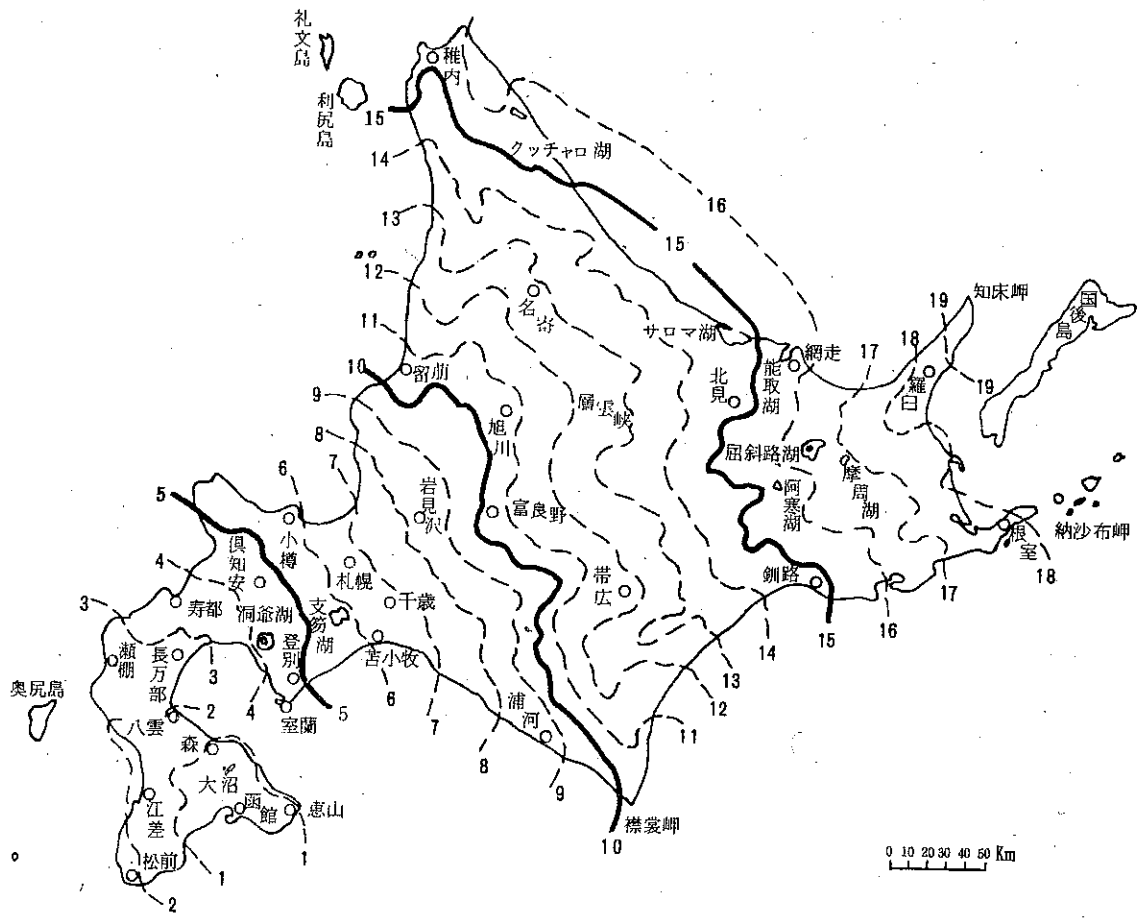
単位：時間



7 函館を中心とした時間距離図

(乗用車利用)

単位：時間



## 函館市の観光の現況

我が国の観光レクリエーションは、経済の高度成長による国民所得や消費水準の上昇をはじめ、交通機関・宿泊施設の拡充、自由時間の増大などによって飛躍的な増加を遂げ、今日においては国民の生活に定着したものとなっている。

この間の観光事情を見ると、昭和39年の東京オリンピック開催を契機に、観光旅行量の増大を招き、45年大阪における日本万国博覧会の開催においては、さらに旅行量を増加させその内容も家族や友人・知人によるグループ旅行を促すこととなり、旅行形態は大きな変化を遂げた。

その後、石油危機等による一連の経済変動により、一時的な旅行量の停滞が見られたが、将来においては自由時間の増大など、社会的、経済的な諸条件から推して、観光レクリエーション需要は伸びるものと予想される。しかし、国内の観光旅行については、海外志向や他の余暇活動の増加などが予測され、従来のような大きな伸びは期待できないものと思われる。

このような国内状況の中で、本市の観光客入込み数は、40年代に入ってから着実に増加し、48年度には298万人と300万人台に迫った。しかし、低成長経済期に入った49年度からは減少を続け、53年度に至って回復傾向が見られたが、その後は大きな変化はなく、以来250万人台を示している。

本市は、夜景で有名な函館山をはじめ、開港の歴史の情緒を漂わせる元町周辺のたたずまいや、特別史跡「五稜郭跡」、トラピスチヌ修道院など豊富な資源に恵まれており、また、宿泊機能、商業機能などの集積が高く、かつ交通の要衝にあるなど、観光都市としての条件を具備している。

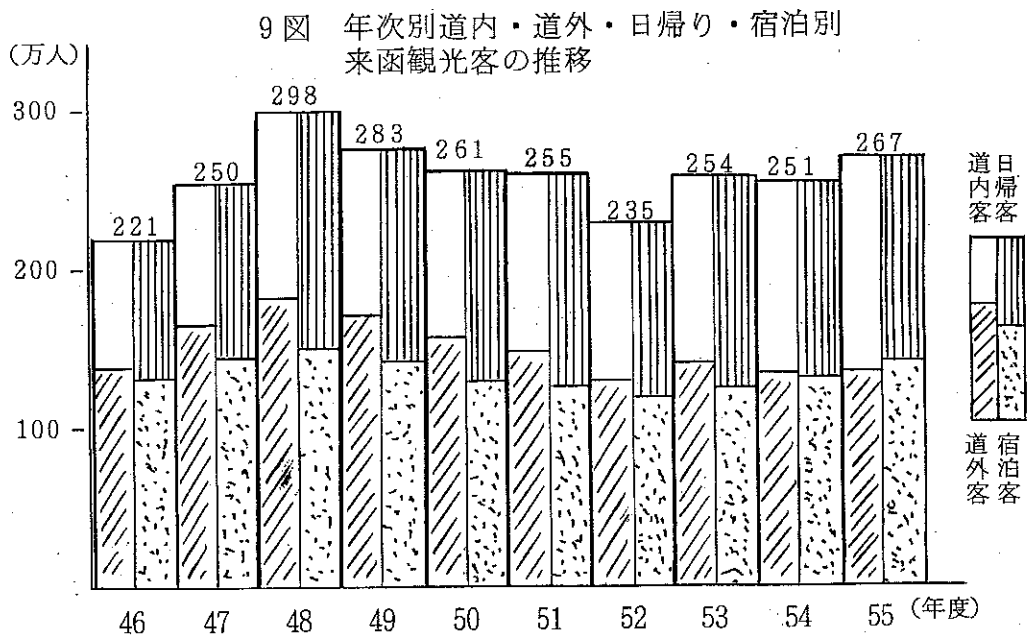
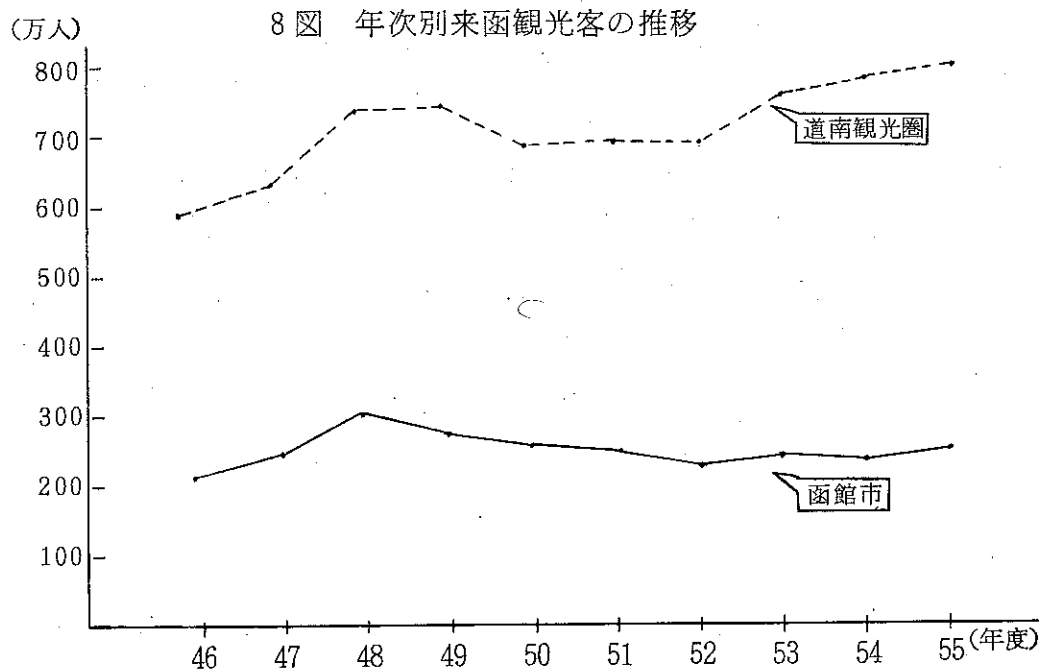
### (1) 観光客の入込み

本市の観光客入込み数は、全国的な旅行量の増大とともに着実な伸びを示してきた。特に昭和48年度は、テレビドラマ「北の家族」に触発されたこともあって、これまでの最高298万人の入込み数となり、同様に函館圏全体においても533万人と最高を記録した。

しかし、同年秋の石油ショックに端を発した一連の経済変動は、国民の余暇活動にも強い影響を与え、翌49年以降から旅行控えが目立つようになり、本市もこうした影響を受け49年度は282.9万人と前年比15.1万人の5.1%減、

50年度は260.8万人と前年比22万人の7.8%減、51年度は255万人と前年比5.9万人の2.3%減、52年度は234.7万人で前年比20.3万人の8.0%減と、それぞれ落ち込んだ。特に52年度は48年度比で63.3万人の21.3%減となり、47年度以降における入込み数の最低を記録した。

53年度からは254万人となり、前年比19.3万人と8.2%の増加をみせ、54年度は251万人で前年比1.2%の減と、やや横ばいで推移している。



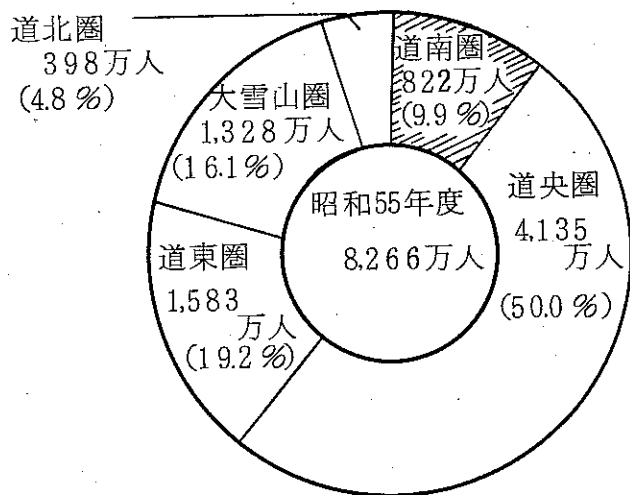
資料 函館市商工観光部観光室

55年度における北海道の入込み状況について見ると、全体では8,266万人、うち渡島、松山支庁管内を圏域とする道南観光圏は822万人となっている。

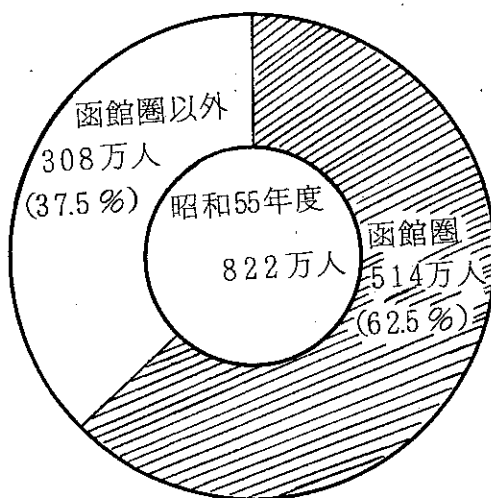
北海道では観光圏を道南、道央、大雪山、道東、道北の5ブロックに分けているが、道内における5ブロックの入込み構成比を見ると、札幌市を核とする道央観光圏が50.0%と他観光圏を圧し、次いで阿寒・摩周湖などを擁している道東観光圏が19.2%、続いて大雪山観光圏が16.1%となっており、道南観光圏は9.9%で4番目になっている。

函館圏の入込み数は514万人となっており、道南観光圏の62.5%を占め、函館圏への集中が目立ち、圏内では本市が267万人、大沼（仁山を含む）が247万人となっている。

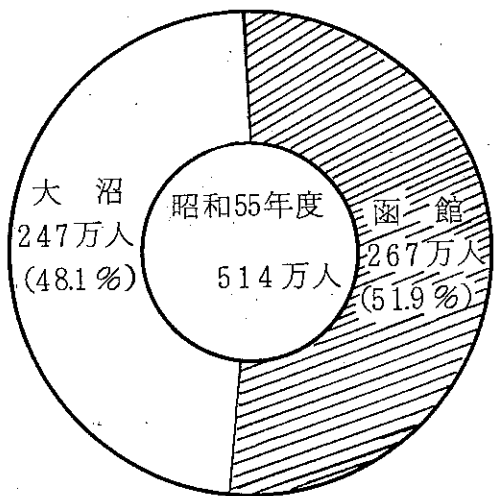
10図 北海道観光客入込み数



11図 道南観光圏入込み数



12図 函館圏入込み数



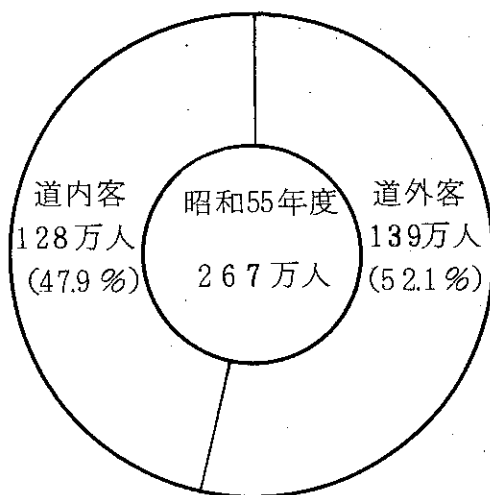
資料 北海道商工観光部

本市の入込み内容を道内・道外客別で見ると、道内客は128万人の47.9%、道外客は139万人の52.1%と道外客が11万人多く4.2%上回っている。

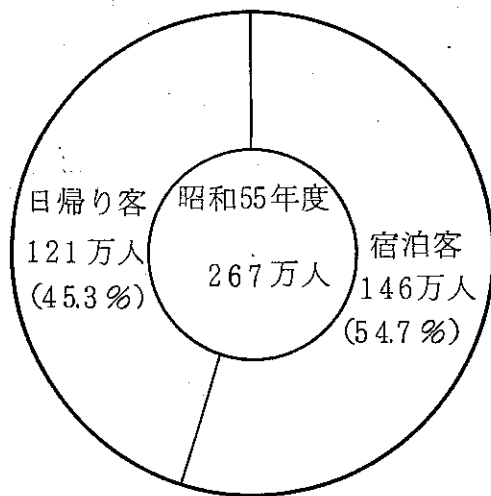
日帰り・宿泊客別では、日帰り客が121万人で45.3%、宿泊客は146万人の54.7%と、宿泊客が25万人、9.4%多く、道内の都市部では最も高い比率となっている。

季節別では、5月から9月の間に205万人と77.0%の入込みがあり、10月から4月にかけては62万人で23.0%と少なく、春季・夏季の二季型を示している。

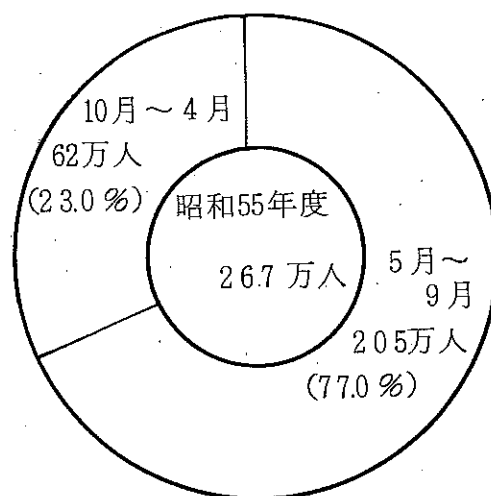
13図 函館市道内・道外別入込み数



14図 函館市日帰り・宿泊別入込み数



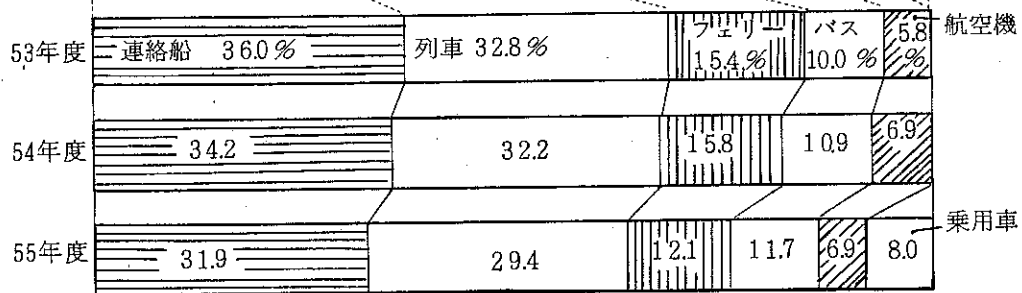
15図 函館市シーズン別入込み数



資料 函館市商工観光部観光室

6表 利用交通機関別来函観光客の推移

区分 年度	連絡船		列車		フェリー		バス		航空機		乗用車		合計	
	観光客 千人	率 %	観光客 千人	率 %	観光客 千人	率 %	観光客 千人	率 %	観光客 千人	率 %	観光客 千人	率 %	観光客 千人	率 %
53	913	36.0	833	32.8	392	15.4	254	10.0	148	5.8	—	—	2,540	100.0
54	857	34.2	808	32.2	398	15.8	275	10.9	172	6.9	—	—	2,510	100.0
55	852	31.9	783	29.4	322	12.1	314	11.7	183	6.9	215	8.0	2,669	100.0



※ 昭和55年度の調査より、これまでフェリーに包含して推計していた乗用車について、新たに項目を設けて集計した。

資料 函館市商工観光部観光室

(2) 観光ルート

本市を中心とする主要観光ルートは、札幌を結ぶ国道5号線と、恵山方面を回る国道278号線並びに松前、江差方面に向かう国道228号線、227号線があり、ほかに青森へ向けての海上ルートがある。

以下各ルートについて内容を見ると

ア 函館—大沼—札幌ルート (国道5号線)

函館を起点に、南北海道唯一の国立公園である大沼を經由する国際観光ルートであり、道央を結ぶ重要幹線となっている。

イ 函館—恵山—森—大沼ルート (国道278号線)

函館を起点に、みなみ北海道オーシャンラインを形成する海岸ルートで、奇勝に富んだ海岸線が続くなかに活火山があるなど、自然景観の優れたルートであり、鹿部からは大沼へ回遊することもでき、函館、恵山、大沼の主要観光地を結ぶ周遊ルートとなっている。

ウ 函館——松前ルート（国道228号線）

追分ソーランラインとして注目を集めているルートの一部で、函館から松前までの海岸線。松前・矢越道立自然公園を擁し、海岸景観が優れている。

また、松前から日本海に沿って江差へ通じる道路については、その整備が急速に進み、近く周遊ルートとして自家用自動車などによる観光レクリエーションの増加が期待されている。

エ 函館——江差ルート（国道227号線）

函館から約70kmの距離にある江差は、ニシン漁で栄えた往時の人文資源を有し、桧山地方の中核として、また、追分ソーランラインの中継基地にあたり、近年、狩場・茂津多地区の開発に伴い、観光客が増えてきている。

オ 海上ルート

海上ルートとしては、函館—青森のほか、函館—野辺地、函館—大間、戸井—大間、福島—三厩とあるが、戸井—大間と、福島—三厩の航路は季節の運航で、ルートとしての機能は低い。

函館—青森航路は国鉄と民営があり、他の航路はすべて民営によって運航されているが、このなかで函館—青森航路の輸送力が最も大きい。

カ 航空ルート

東京をはじめ、名古屋、仙台、札幌の主要都市のほか、奥尻を結ぶ5ルートがあり、東京間の利用が最も多い。

最近、千歳空港の国際化に伴ない函館空港がその代替として重要視されている。また、当空港からは海外チャーター便も出ている。ほかに、大阪を結ぶ航路があるが、現在は運休している。





キ 市内観光コース

観光コースには、市内中心のモデルコースとして散策コースを含めた3コースがあるほか、近郊をめぐる5コースが設定されている。

定期観光バスは、駅前を起点として函館山を核にした6コースを運行しているが、うち1コースは冬期間のコースで、11月初旬から4月下旬までの運行となっている。冬期以外の5コースのなかでは、標準的な観光地点を結び運行期間の長いAコースの利用が最も多く、全体のおよそ60%を占めている。

更に、ハイヤー、タクシーを利用する場合の一般的なコースとしては、函館山を中心に外人墓地、立待岬、五稜郭、トラピスチヌ修道院などを組み合わせた5コースがある。

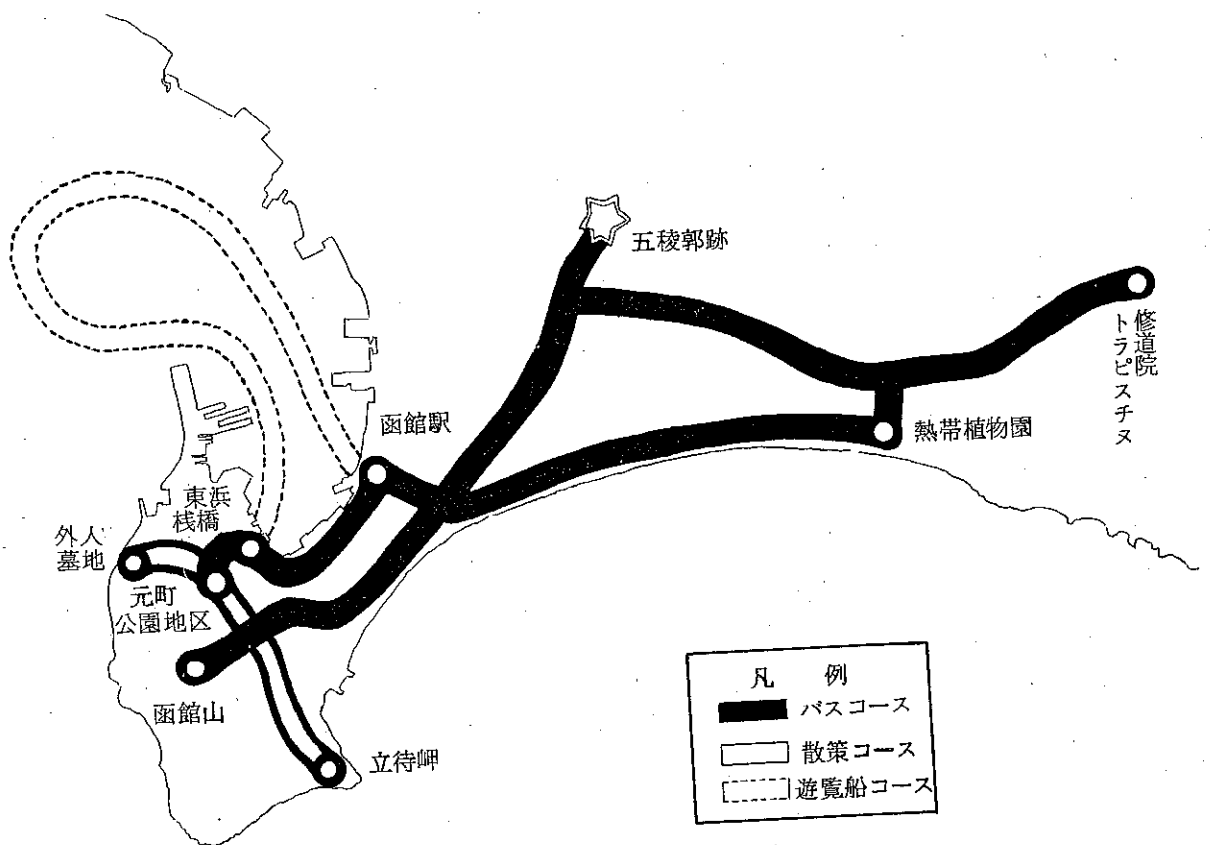
7表 函館と周辺の観光コース

種 類	コ ー ス 内 容
(市内モデルコース)	
A コ ー ス	函館駅前－五稜郭公園－湯の川－トラピスチヌ修道院－熱帯植物園－啄木小公園－函館駅前－函館山－函館駅前
B コ ー ス	函館駅前－立待岬－函館山－五稜郭公園－湯の川－トラピスチヌ修道院－四稜郭－函館駅前
西部散策コース	函館駅前－立待岬－函館山－ハリストス正教会－公会堂－郷土資料館－中華会館－外人墓地－函館駅前
(函館周辺モデルコース)	
恵山コース	函館（市内観光）－恵山（泊）－函館
大沼コース	函館－大沼（大沼めぐり）－函館（湯の川温泉泊）－函館（市内観光）
大沼・恵山コース	函館－大沼（大沼めぐり）－恵山（恵山めぐり・泊）－函館（市内観光）
松前史跡コース	函館－松前（史跡めぐり）－函館（市内観光）
江差・五厘沢コース	函館－江差（江差めぐり）－五厘沢温泉（泊）－江差－函館（市内観光）

(定期観光バス)

- |       |   |
|-------|---|
| A コース | 函館駅前－函館山（ロープウェイ片道）－五稜郭公園（タワーより展望）－トラピスチヌ修道院－熱帯植物園－函館駅前  |
| B コース | 函館駅前－五稜郭公園（タワーより展望）－トラピスチヌ修道院－函館山（ロープウェイ片道）－東浜栈橋（遊覧船で港内一周）－函館栈橋   |
| C コース | 函館駅前－函館山－函館駅前   |
| D コース | 湯の川温泉－函館山－湯の川温泉   |
| E コース | 函館駅前－函館病院坂上（散策コース）－ロープウェイ山麓駅－函館山－函館駅前   |
| 冬のコース | 函館駅前－新島襄渡航記念碑－中華会館－公会堂（散策）、ハリストス正教会（散策）、カトリック教会（散策）、ロープウェイ山麓駅－函館山－五稜郭公園（タワーより展望）－トラピスチヌ修道院－熱帯植物園－啄木小公園－函館駅前 |

17図 市内観光コース



### (3) 観光資源・施設

本市の観光資源は、幕末から明治時代にかけての開港による歴史を背景とする人文資源が多く、自然資源の比重の高い北海道のなかでは特徴的な存在となっているが、特に、自然資源としては全国的に有名な函館山があり、本市のシンボルとなっている。

人文資源については、安政6年(1859年)に我が国初の海外貿易港として開港されて以来の欧米文化の影響を受けた建造物が多く、その大部分は西部地区に集中しており、全国的にはハリストス正教会をはじめ、特別史跡「五稜郭跡」、トラピスチヌ修道院などが有名になっている。「まつり」については、半世紀に近い歴史を有する「函館港まつり」が最も盛大であるが、近年、個性ある歴史的なまつりとして「箱館五稜郭祭」が注目されている。ほかに「函館さくらまつり」「高田屋嘉兵衛まつり」「湯の川温泉納涼まつり」などがあるが、時期的には、大沼を主会場とする「大沼・函館雪と氷の祭典」が1月に行われる以外は5.7.8月に集中している。

観光レクリエーション施設等については、函館山ロープウェイ、五稜郭タワー、熱帯植物園、博物館、競輪場、競馬場などがあり、このうち函館山ロープウェイ、五稜郭タワーの利用者数は、それぞれ年間30万人を超え、熱帯植物園では、年間およそ19万人となっている。

スポーツ・レクリエーション施設では、ゴルフ場が6か所、スキー・スケート場がそれぞれ1か所あり、大沼地区など、近郊の施設を含めるとゴルフ場12か所、スキー場4か所、スケート場2か所となるが、スキー・スケート場はいずれも規模が大きくなく地域性の施設となっている。

その他、本市は交通の要衝にあるため、観光シーズンには休憩・飲食をする修学旅行、団体が多く、これらを受け入れる施設としてはデパートの食堂を含め、100～200人収容の規模のものが5か所ある。また、近年、観光客に人気のあるものとして朝市や路面電車がある。

朝市は、生鮮食料品を中心に市民の台所として親しまれ、その庶民性、ふるさと性が魅力となっている。

路面電車は、稀少価値の高い乗り物として注目されているが、最近、バスと共通の「一日乗車券」が発売されるなど、観光客や市民に利用されている。

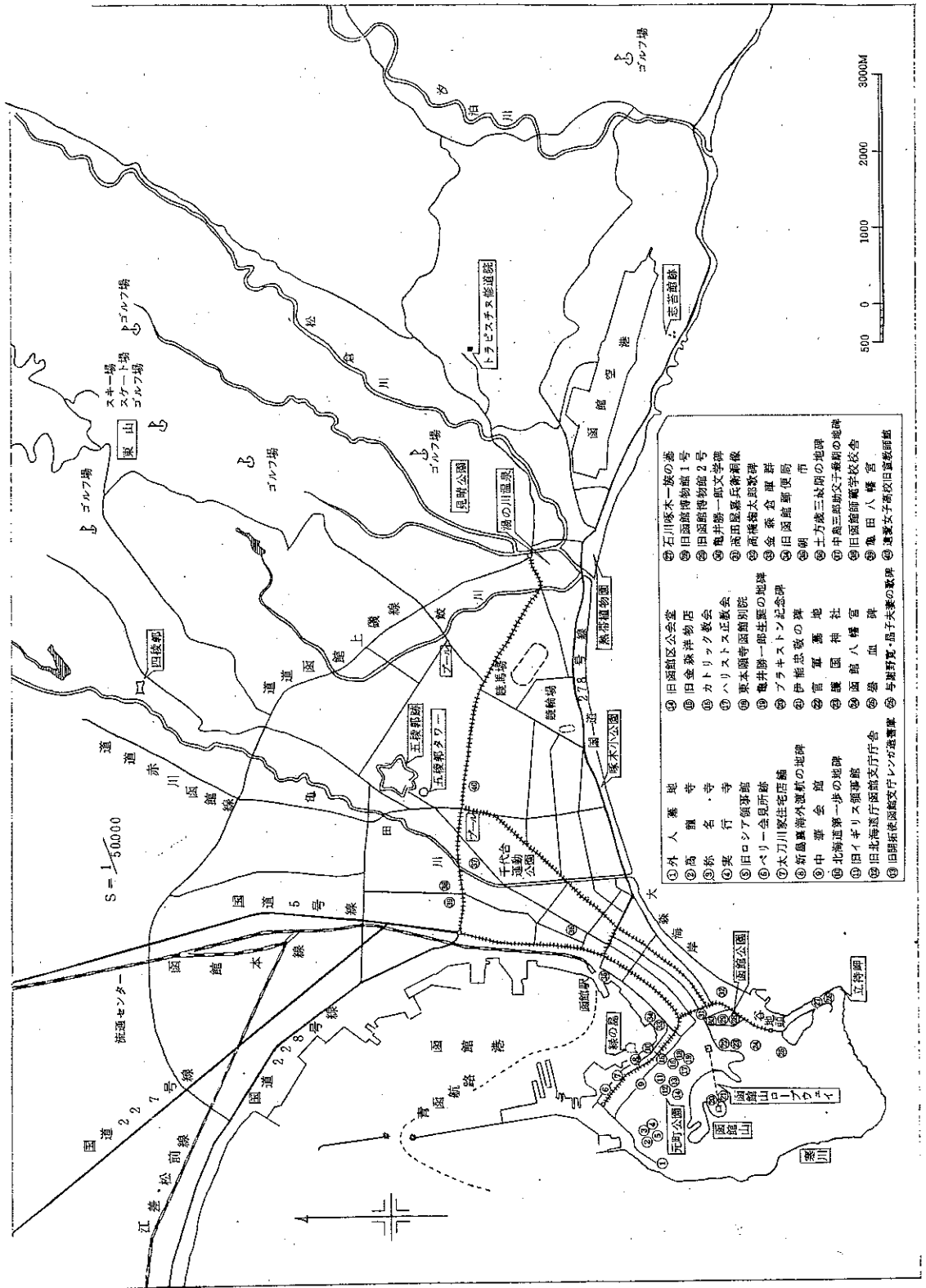
一方、本市の近郊には大沼国定公園をはじめ、横津岳、仁山、当別トラピスト修道院、松前藩戸切地陣屋跡、八郎沼などがあり、全国的には大沼が有名で最近大沼大規模年金保養基地が整備され、観光客の利用が増えてきている。

また、周辺地域に恵山、松前・矢越、桧山などの道立自然公園があり、火山とツツジの恵山、松前城を中心とする史跡と桜の松前、かもめ島と追分の江差などが有名である。

8表 函館市の主要観光資源・施設現況

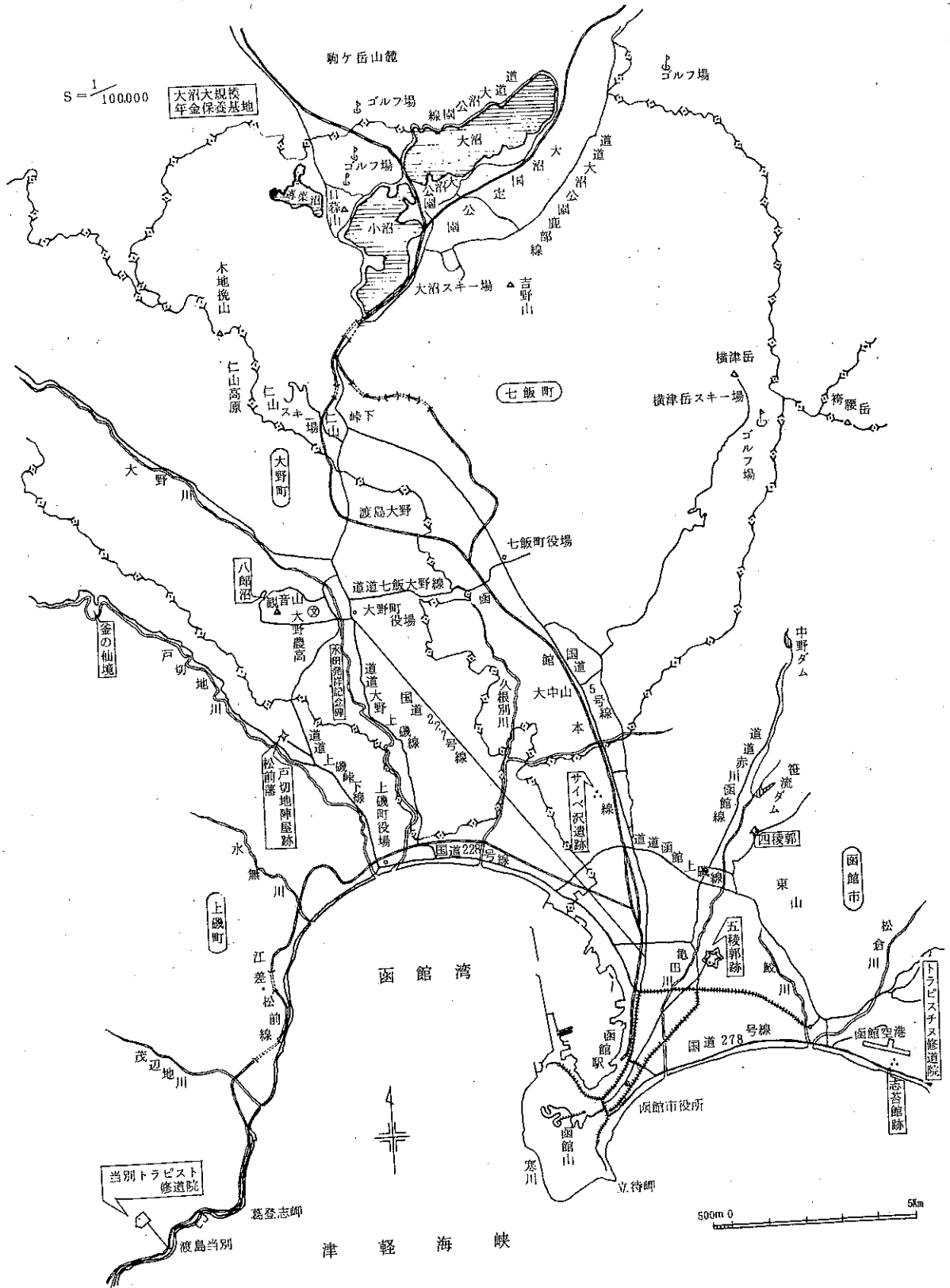
自然	山 海岸 温泉	山 景 観 泉	函 立 湯	館 の 川、 谷	東 待 地	山 岬 頭	公 園	見 元 豚	晴 町 木	公 小 公	園 公 園	
												寺 院
人	郷土景観	西 部 地 区	重要文化財	太刀川家住宅 店	住 宅 鋪 区 堂	社 宮 宮 寺 寺 院 会 会 院	人	文	行 事	大沼・函館雪と氷の祭典 函館さくらまつり 箱館五稜郭祭 湯の川温泉まつり 高田屋嘉兵衛まつり 函館港まつり 湯の川温泉納涼まつり	地域風俗	朝 市
文	史跡	特別史跡	「五稜郭跡」 「四稜郭」 「志苔館跡」	史跡	「五稜郭跡」 「四稜郭」 「志苔館跡」	史跡	文	行 事	味 覚	イカ、その他魚介類、鮭、三平汁、馬鈴薯、赤かぶ、バター、ハム・ソーセージほか	観光施設	水産加工場など10、競輪場、競馬場

18 函館市の主要観光資源・施設分布図

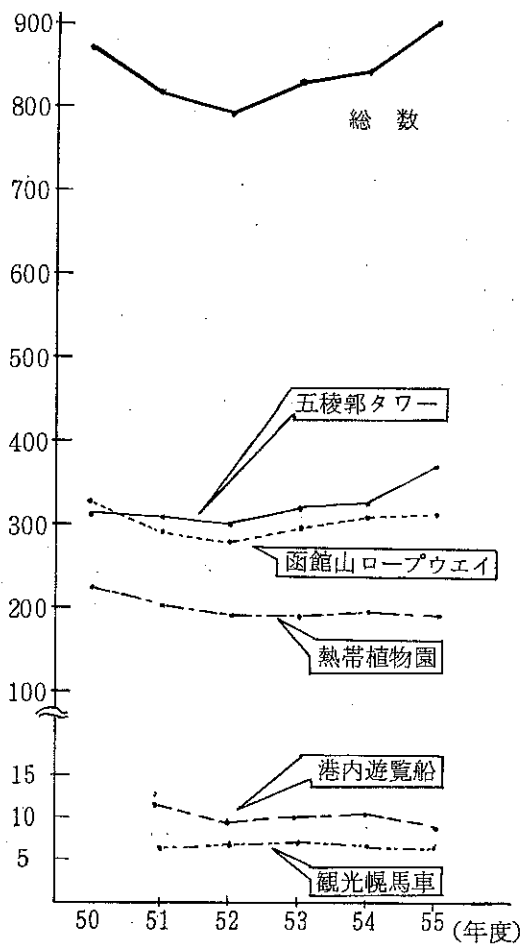


- ① 外人墓地
- ② 函館市立博物館
- ③ 函館市立博物館2号館
- ④ 函館市立博物館3号館
- ⑤ 函館市立博物館4号館
- ⑥ 函館市立博物館5号館
- ⑦ 函館市立博物館6号館
- ⑧ 函館市立博物館7号館
- ⑨ 函館市立博物館8号館
- ⑩ 函館市立博物館9号館
- ⑪ 函館市立博物館10号館
- ⑫ 函館市立博物館11号館
- ⑬ 函館市立博物館12号館
- ⑭ 函館市立博物館13号館
- ⑮ 函館市立博物館14号館
- ⑯ 函館市立博物館15号館
- ⑰ 函館市立博物館16号館
- ⑱ 函館市立博物館17号館
- ⑲ 函館市立博物館18号館
- ⑳ 函館市立博物館19号館
- ㉑ 函館市立博物館20号館
- ㉒ 函館市立博物館21号館
- ㉓ 函館市立博物館22号館
- ㉔ 函館市立博物館23号館
- ㉕ 函館市立博物館24号館
- ㉖ 函館市立博物館25号館
- ㉗ 函館市立博物館26号館
- ㉘ 函館市立博物館27号館
- ㉙ 函館市立博物館28号館
- ㉚ 函館市立博物館29号館
- ㉛ 函館市立博物館30号館

19図 函館市周辺地域の観光資源・施設分布図

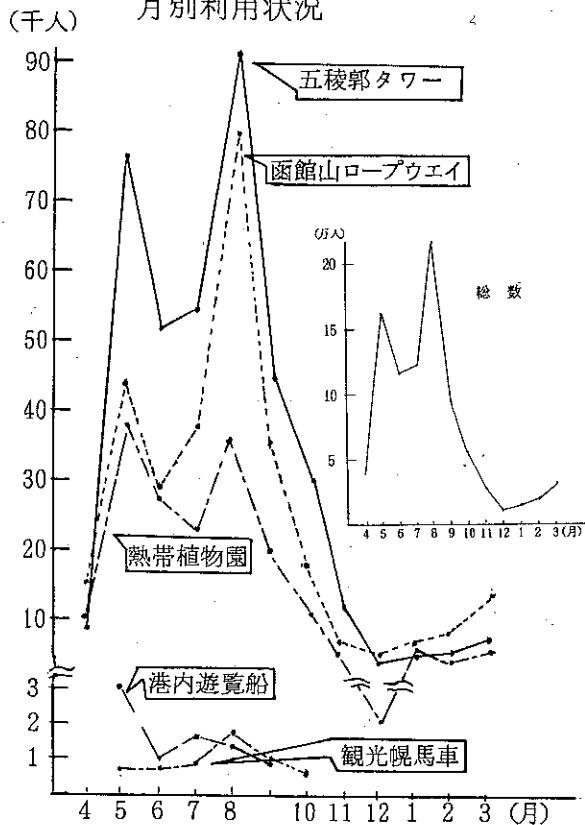


20図 観光施設利用者の推移



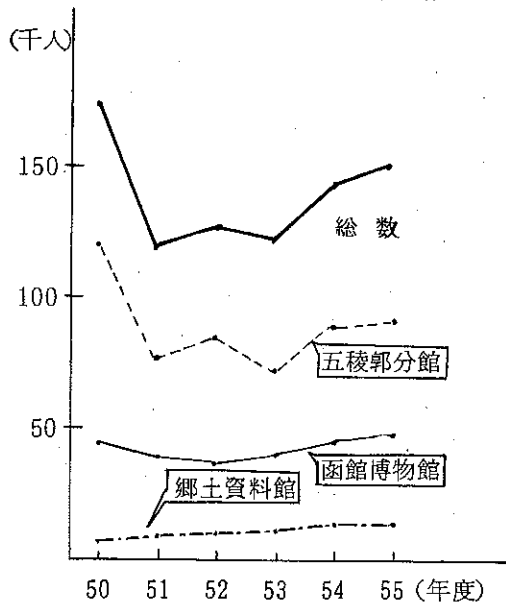
資料 函館市商工観光部観光室

21図 昭和55年度観光施設月別利用状況



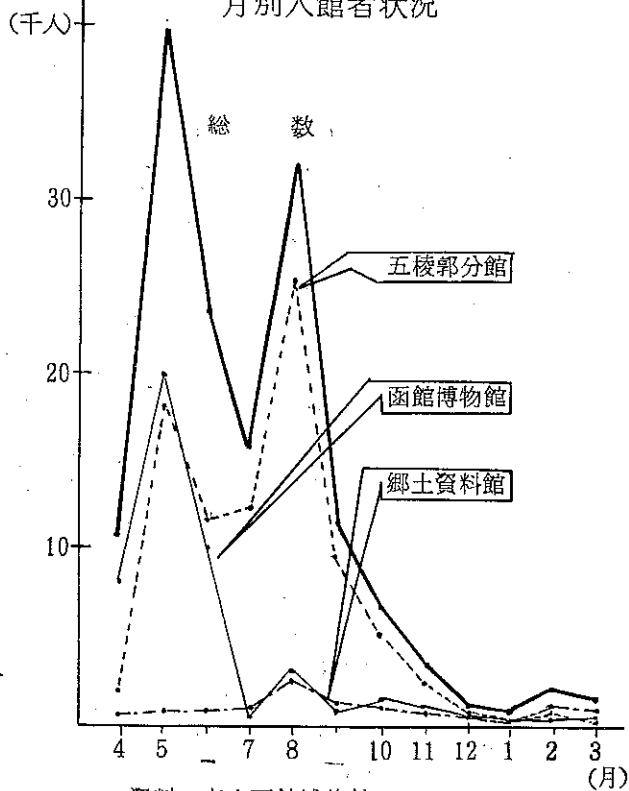
資料 函館市商工観光部観光室

22図 博物館入館者の推移



資料 市立函館博物館

23図 昭和55年度博物館月別入館者状況



資料 市立函館博物館



(4) 宿泊施設

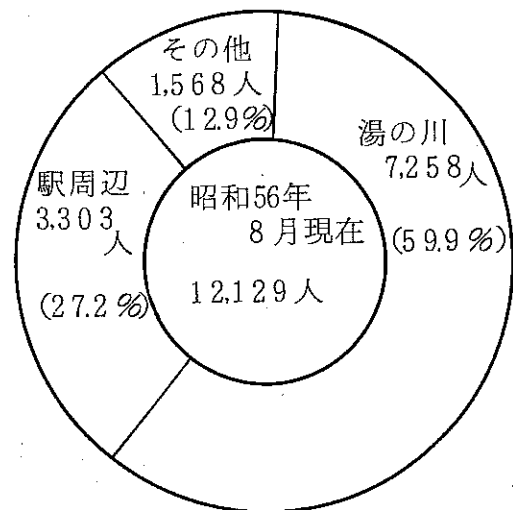
本市の宿泊施設は、総軒数が282軒で12,129人の収容能力を有しており、三分の二以上が函館駅前周辺と湯の川温泉に集中している。

駅前周辺地区の軒数は116軒で、3,303人の収容能力を有しており、軒数では市内総数の4.1%と、その集積度合は高いが、収容能力においては27.2%と少なく、1軒当たりの規模では室数が145室、収容能力が28.5人となっている。

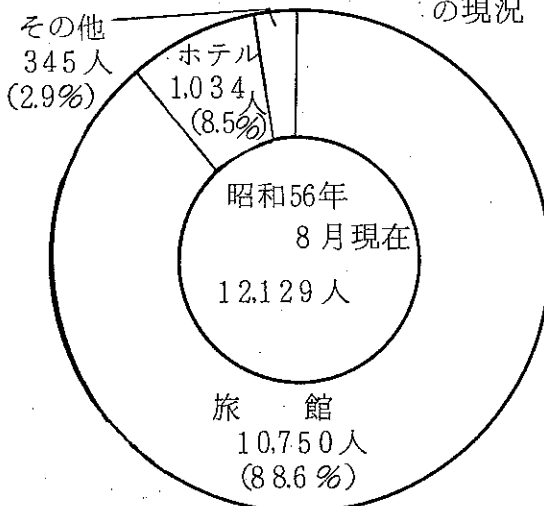
湯の川地区は、軒数では84軒と、市内総数のおよそ30%となっているが、収容能力では7,258人と、市内総数の59.8%を占め、宿泊拠点の役割を担っている。規模は1軒当たりの室数が246室、収容能力では86.4人となっている。

駅前周辺地区と湯の川地区以外の其他地区には82軒が点在し、1,568人の収容能力があり、それぞれ市内総数の29.1%、13%を占めている。規模では1軒当たりの室数が8.8室、収容能力で19.1人となっている。

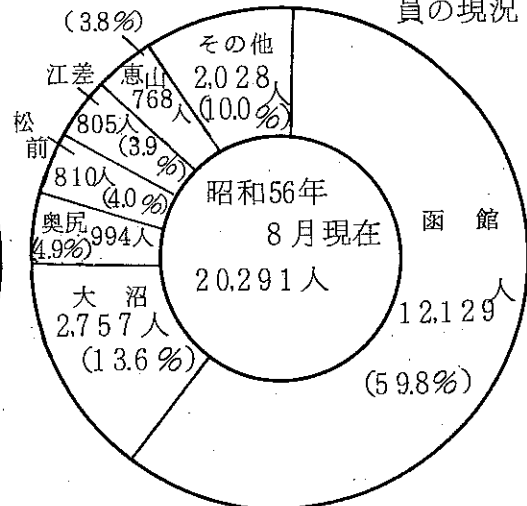
24図 函館地区別収容人員の現況



25図 函館市宿泊施設別収容人員の現況



26図 道南観光圏宿泊施設収容人員の現況



資料 函館市商工観光部観光室

## 第2 函館市の観光の問題点と課題

### 1 函館市の問題点と課題

観光レクリエーション需要は、今後ますます増加するものと思われるが、観光旅行等については若年層を中心に海外旅行が多くなっており、しかも長期旅行化の傾向にある。

したがって、国内における観光地間の競合は激しくなるものと思われ、今後どのような魅力づけをしてこれらに対応していくかは、本市のみならず各観光地が抱える共通の課題といえよう。

こうした状況のなかで、昭和57年度には東北（盛岡）、上越新幹線の開業が予定されており、開業に伴ってこれら沿線地域は東京の日帰り圏内となって、首都圏の一部に組み入れられる形となることが予想され、この圏内での観光活動が盛んになるものと思われることから、北東北地方の一部地域や本市にとっては、一時的にも影響を受けることが考えられる。

更に、今後青函トンネルの開業をはじめ、北海道新幹線の建設などによる交通変革は、これまでの他の事例から、観光客の行動範囲と観光地の選択性を拡大させ、交通便利な観光地や知名度の高い観光地への流動が考えられ、本市における観光客の動向に大きな変化をもたらすものと予測される。

このため、本市を中心とする道南観光圏と北東北地方が連携して観光資源をはじめ、交通体系の整備を進め、一体となった広域観光圏の形成を図る必要がある。特に本市は、自然あるいは歴史的文化遺産等の資源を生かす施設の整備や、演出を必要とするほか、まちの美化に努め、徹底したPRと地域ぐるみのサービスをもって、観光客と資源とを効果的に結ぶ一連の整備、開発や行為が必要であろう。

#### (1) 観光資源・施設

魅力ある観光地として観光客を誘引するには、他の観光地にない個性ある資源等を有することが大きな要素となるが、本市の自然、人文資源には特異なものが多く、これらの観光価値をいかにして高めていくかが課題である。

函館山については、山頂駐車場の絶対的不足などにより、シーズン中の夜間における登山道路の交通渋滞が著しい状態となっているほか、山頂展望施設が狭隘、老朽化し、かつ、構造的にも展望機能が不十分であるなど、観光価値の低下を招きつゝあり、当面する大きな問題となっている。

西部地区に集積されている歴史的建造物やまち並み景観は、文化など、心の豊かさを求める観光客が増加している傾向にあることから、観光資源としての価値の高いものであり、今後、西部地区は本市の観光拠点として重視すべき地区であるが、建物の多くは老朽化が進み一部現代的な建物に建て替えられている。このことは、貴重な歴史的建造物を失うばかりでなく、観光資源としてのまち並み景観の破壊にもつながり、その保全対策が緊要となっている。

また、近年、道内外から生鮮食料品を中心とする買物ツアーが増えてきているが、特に朝市への立寄りが多く、本市の新たな観光資源となっているため、朝市の環境を整備し、観光客を受入れる施設などの充実が望まれている。

道内唯一の特別史跡「五稜郭跡」は、洋式の城塞として我が国でも珍しく、極めて貴重な歴史資源であり、特別史跡としての整備が進められているが、観光的な活用をより一層高めるための施設や、関連する催事の整備を図る必要がある。

一方、本市は、三方を海に囲まれていながら、市民や観光客が楽しめる海浜が少ない状態となっており、海浜空間の確保とレクリエーションなどの施設整備が望まれる。

観光レクリエーション施設については、都市型観光施設をはじめ、レジャー・レクリエーション施設の不足があげられ、これらレジャー型機能の充実が必要である。また、文化・娯楽的なものとして水族館やレジャーランドなどの整備が、市民からも強く望まれている。

## (2) 宿泊施設

観光需要が増大していくなかで、観光客の宿泊施設に対する欲求は著しく変化し多様化して、全国的に旅館からホテル・民宿等への利用が増えているが、本市においても、これら観光客の志向に対応して、ホテルの建設や民宿

の経営が進められている。

しかし、既存施設を含め快適性、利便性などにおいて十分とは言えないものがあり、施設設備の早急な整備が望まれる。

特に宿泊の拠点に位置づけられている湯の川温泉は、隣接地に市民会館をはじめ、市民体育館、根崎運動公園などの公共施設が整備され、交通が便利であるほか、近くに空港があるなど、温泉街としては恵まれた環境にあるが、温泉地区内に民家等が混在し温泉情緒を希薄にしており、レジャー・レクリエーション施設等の立地をも困難にしている。

このため、温泉地としての魅力に欠け、大沼や他の地域の宿泊施設が増強されるにしたがって、宿泊拠点としての地位の低下が懸念されており、個々における宿泊施設設備の改善はもとより、地区全体の抜本的な対策が必要である。

### (3) 交通体系

本市の国鉄路線には、函館駅を拠点に青函航路とこれに接続する函館本線があるほか、日本海沿岸を結ぶ松前、江差線があり、特に青函航路と函館本線は、函館を訪れる観光客のおよそ60%が利用している重要路線となっており、最近、青函トンネル開通後の連絡船について論議されているが、交通の要衝となっている本市にとって連絡船の存続は、主要な交通手段として、また観光資源としての価値からも必要であり、大きな問題である。

本市と本州を結ぶフェリーの3航路については、小樽、室蘭、苫小牧、釧路と本州各主要都市を結ぶ長距離フェリーの増大によって、その利用の伸びも停滞しているため、需要喚起が必要となっている。

航空路線は、函館空港の整備により利用客も順調な伸びを示してきたが、更に空港の拡充が必要であるとともに、国際空港化への対応が望まれる。

幹線道路については、函館駅を中心に国道4路線をはじめ、道道、市道が扇状に拡がり、これらを連結する3環状線を軸に整備されており、いずれも観光ルートとなっている。しかし、近年、自動車の増加により市内交通量を緩和するための新外環状線や、観光資源を結ぶ道路の整備拡充が必要になっているとともに、観光資源の集中する西部地区をはじめ、駅前、五稜郭公園地

区などにおける観光バス等の駐車場が不足している。

また、市内の交通機関には路面電車、バスがあり、特に路面電車については西部方面、駅前、五稜郭公園、湯の川温泉など、主要な観光資源の集積地区を結んでおり、本市の観光にふさわしい乗り物として今後とも重要性が高い。

一方、道南観光圏では、函館本線と国道5号線が併走している函館一大沼一長万部のI字型が主力となっているが、道央との連携を強めるための高速自動車道や、当別トラピスト修道院および恵山方面への周遊性を高める広域道路体系の整備が必要である。また、松前、江差は遠距離にあるなど、本市との有機的な関連性が比較的に弱いこと、これら日本海側などへの交通ネットワークの整備が急がれるとともに、広域的な観光バス輸送体系の確立が必要とされる。

#### (4) 観光宣伝と観光サービス（接遇、行事、物産）

観光地における誘客宣伝や観光サービスは極めて重要なものであるが、豊富な観光資源を有する本市においても、これらの一層の強化充実が必要である。

観光宣伝においては、印刷物の作成や誘致事業を主体とした活動が行われているが、新聞、雑誌、テレビ等マス・メディアの積極的な活用、観光物産展等宣伝行事のより一層の充実など、情報サービス化時代に対応した宣伝の推進が必要である。

接遇などにおいては、接客態度や土産品の品質、価格などに関する苦情が少なくなく、本市の観光地としての評価に大きな影響を及ぼす問題であるだけに、観光関連従事者の接遇並びに土産品店等のサービス改善に一層の努力が望まれる。

また、観光地の印象を高めるもののひとつに観光地の美化があり、本市においては「まちをきれいにする」市民運動が活発に行われ成果をあげているが、更に本市の魅力を高めるため、官民一体となった美化活動の推進が必要である。

一方、本市の行催事については、そのほとんどが「まつり」となっている

が、観光行事としてはやゝ盛り上りに欠けており、既存の「まつり」を全国的なものにするための充実と、独創性が望まれるほか、新たな行催事の創出が必要となっている。

土産品や味覚については、海産物、農産物などの素材に恵まれていながら、地域を代表する全国的なものが少なく、特に民芸品等には独自のものが不足しており、本市の歴史的風土や地場産業を生かしたものの開発が必要である。

いずれにしても、観光資源が優れているだけでは観光客の誘引が容易でなく、資源施設の整備はもとより、観光関係者のサービス精神の向上と市民の観光意識の高揚とともに、行催事や物産の充実が観光地づくりに必要な要素といえる。

## 2 函館市周辺地域の問題点と課題

国定公園の大沼地区は、道南観光圏の観光レクリエーション基地として、近年、大規模年金保養基地をはじめ、民間企業によるレジャー・レクリエーション施設の整備が進められてきているが、今後、観光レクリエーション需要の多様化が予想されるため、既存施設の拡充とともにこれらに対応する新たな施設等の整備が必要である。

特に冬季におけるレジャー・レクリエーション施設が十分といえず、圏外客の誘引力が比較的弱い状態にあるが、冬季対策は、通年観光に向けて足がかりとなる重要な問題であり、これらの整備は本市にとっても大きな課題となっている。

本市近郊には、ほかに上磯地区の当別トラピスト修道院、松前藩戸切地陣屋跡、釜の仙境、大野地区の八郎沼、観音山などの観光資源があり、本市と大沼地区との観光機能を補完し合うものとして、今後これらの整備と有効活用が望まれている。

また、函館圏周辺には恵山、松前・矢越、桧山の道立自然公園があり、自然と歴史的文化遺産に恵まれた特色ある観光レクリエーション地帯を形成しているが、各地区に均衡ある観光客の入込み増を図るための各種施設等の整備とともに、交通網の確立が望まれる。



### 第 3 章 基 本 計 画



## 第3章 基本計画

### 第1 計画の基本方針

本市は、温暖な気候風土、豊かな自然、歴史的な文化遺産など数多くの観光資源に恵まれた魅力ある都市を形成しており、更に、北海道と本州との結節点として交通の要衝にあり、観光都市としての優位な条件を具備している。

しかし、今後は、青函トンネルの開業、北海道新幹線の建設など、来るべき交通新時代に対処した観光地づくりが緊要である。したがって、本計画においては所期の目標を達成するため、

恵まれた自然資源と豊かな人文資源の保全と活用

を策定のメインテーマとして定め、市民の英知を結集し、個性豊かな魅力ある国際的観光都市づくりに努めるものとする。

このため、本市のもつ優位な諸条件、特色ある観光資源を高度に活用するとともに、新たな観光資源の発掘、整備を積極的に推進し、まちづくりの一環として快適な生活環境の向上に努め、もって地域の発展を図ることを基本方針とする。

## 第2 観光資源・施設整備計画

本市は、その観光面の特性からして、観光拠点性、交通拠点性、宿泊拠点性と3つの機能をもっており、本計画はこれらの特性を踏まえ、西部地区、函館山地区、五稜郭周辺地区を観光拠点に、函館駅前周辺地区を交通拠点に、湯の川周辺地区については宿泊拠点として、それぞれ重点的な整備を図ることとし、本市全体の観光拠点性を高めるものとする。

### 1 拠点別整備

#### (1) 函館駅前周辺地区

本地区は、都市機能の集積が高く交通の要衝であるなど、立地条件の優位性から本市の都心として位置づけられているが、将来の交通変革に対応し、交通拠点性を高めるための整備を進めるとともに、函館駅前の再開発事業を積極的に促進するなど、都市景観美の創出に努め、観光函館の玄関口として魅力ある市街地の形成を図る。

#### ア 交通拠点の整備

函館駅前地区は、鉄道をはじめ連絡船等港湾機能との関連性も強く、幹線道路等の起終点となっているほか、市内交通機関が集中し交通拠点となっているため、その機能を高めるための整備を進める。

このため、現駅舎を近代的な駅ターミナルビルとして整備を進め、北海道新幹線の早期建設を促進し、新駅の設置を図る。更に、新駅との間に高速電車等の運行確保に努めるほか、函館本線などの電化を促進する。また、駅ターミナルビルにあわせて付近に観光バスを含めたバスターミナルの整備を進め、路面電車やバスの効率的な運行を図る。

一方、車による観光客増に対処し駐車場の整備を図るほか、一方通行や通行制限など都心部の交通処理を計画的に進め、円滑な交通動線の確保に努める。

また、青函トンネル開業後における青函連絡船については、存続に努めるとともに観光船化を図るなど、有効活用を促進する。

#### イ 都市型観光基盤の整備

観光ニーズの多様化により都市型観光に対する志向の増大に対処し、「函館駅前第2地区市街地再開発事業」を促進するなど、都心機能を高めるための整備を進める。

本地区の宿泊施設等については、観光客等の欲求に対応した施設設備の改善をはじめ、都市型ホテルなどの整備を促進する。

また、駅前・大門地区の商店街については、快適なショッピングの場としてウィンドーショッピングの拡充をはじめ、商業施設の近代化を図るほか、ナイトレジャー、文化、娯楽施設等観光レジャー関連施設の整備を促進するとともに、グリーンプラザの整備充実と計画的な有効利用を図り、魅力ある都心商店街の形成に努める。

#### ウ 朝市地区の整備

朝市は、商品の新鮮さ、価格の低廉、更に、素朴な人情味などが観光客に受け、全国的に有名になり、本市の新しい観光名所として買物ツアーなどにより訪れる人も多いが、市民はもとより観光客に対しても楽しく魅力あるショッピングの場を提供するため、更に、環境の整備を進める。

このため、老朽店舗の改築など朝市地区整備事業を促進し、駅前地区周辺における都市景観美に調和した整容と新たなショッピング機能を付加するなどして近代化を推進する。

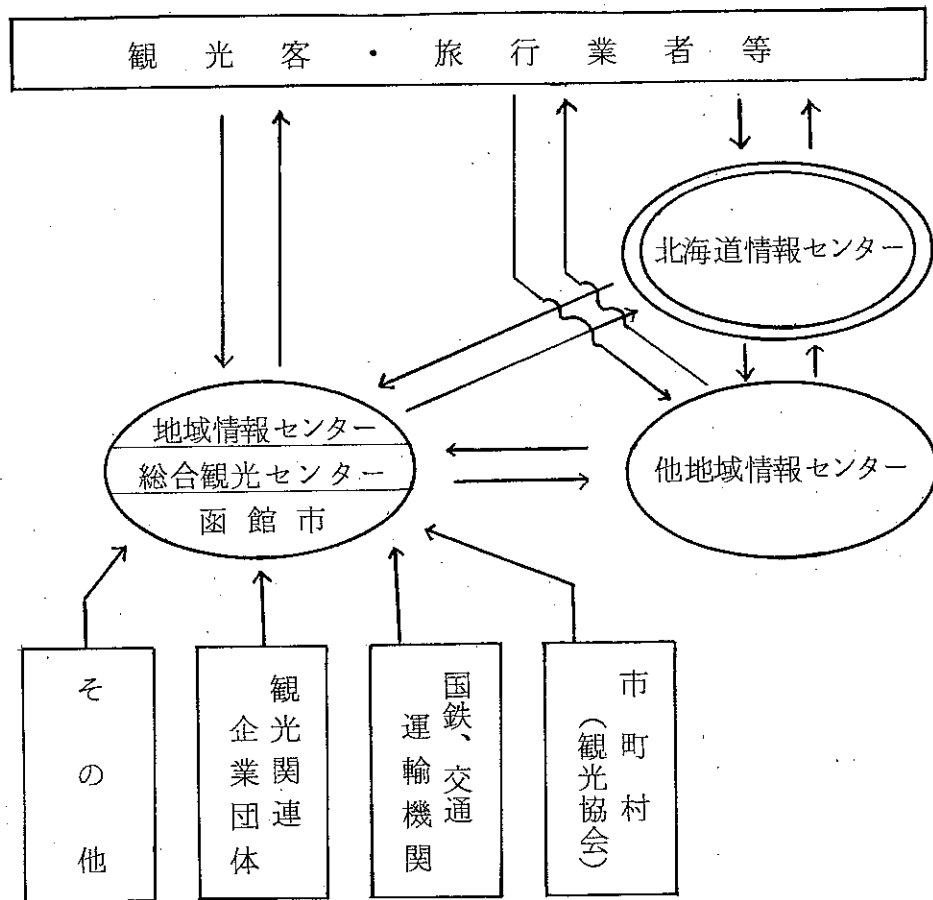
また、集客力を高めるため、朝市固有の情緒を生かしつつ買物動線の改善をはじめ、誘導感を高めるアーチの設置を図るなど買物公園的な整備を進め、観光性の向上に努めるほか、付近の交通動線を確保し、駐車場の設置を進めるなど、周辺環境の整備を促進する。

#### エ 総合観光センターの設置

駅前地区の交通拠点性を充実させ、来函する観光客などの利便に供するため、駅ターミナルビルの建設とあわせ総合観光センターの設置を図る。

総合観光センターは、観光客に対する観光案内体制の強化、観光情報の提供を行うなど、広域観光を含めた案内サービス機能の充実を図るとともに、地場産品の展示などの機能を有するものとする。

27図 総合観光センター情報体系



(2) 西部地区

開港以来の歴史的風土は函館の個性として極めて重要なものであり、特にこれらを伝えるまち並みはわが国でも特異な存在としての特色を有している。

このため、歴史的建造物の有効・適切な活用を図るとともに、まち並み保存に関する制度の確立を図るなど、まち並み景観の保護・保全に留意しつつ、西部地区のもつ魅力や雰囲気の発現に努めながら、住環境の整備を推進するほか、車両による観光客対策として駐車場の確保に努める。

また、臨港部については、観光的にも重要な湾岸道路の早期完成を促進するとともに、駅前地区からのウォーターフロントを散策道とし、レンガ造りの倉庫群等価値ある建造物の整備活用を進め、元町公園地区などとの有機的連携を図る。更に、臨港部の散策道と外人墓地から立待岬までの散策道にサイクリングロードを造成し、海峡散策道と結んだサイクリングコースの設定を図る。

## ア まち並み景観の保存

元町を中心とした末広町、大町、弥生町、弁天町など、西部地区の一带は、函館発祥の地として、また、海運、水産業などで栄えた往時の面影が残り、函館特有のまち並みを形成しているが、建物の多くは老朽化が著しく、逐次近代的なものへと建て替えが進んでいる。

このため、函館らしさを有している一定の区域を歴史的環境街区として設定し、伝統的建造物群保存地区等の指定を図るなど、まち並み景観の保護、保全に努めつつ、快適性と定住性を保持するための住環境の整備を進めるとともに、代表的な建造物については文化財としての指定を促進する。

## イ 元町公園地区周辺の整備

元町公園地区については、公園周辺道路の石畳舗装をはじめ、本市の歴史的郷土色をテーマとした洋式の公園として整備が進められているほか、重要文化財「旧函館区公会堂」等が修復されているが、更に、新たな観光価値を付加するため旧イギリス領事館周辺の環境整備を進め、洋風建造物の復原を図るなど、異国情緒の創出に努める。

一方、有形文化財の活用としては、旧函館区公会堂の公開をはじめ、旧北海道庁函館支庁庁舎を市民や観光客の利便に供する「元町観光案内所」として、旧イギリス領事館は開港にかかわる歴史資料を展示する開港記念館として利用し、観光施設の充実を図る。

また、元町公園地区周辺には、ハリストス正教会、カトリック教会、東本願寺函館別院、中華会館など、函館の歴史的な建造物が多く、独特の情緒をかもし出していることから、特に、基坂から南部坂までの地区一带を散策ゾーンとする。この散策ゾーン内の坂道景観やまち並み景観などについては、道路の石畳化をはじめ、植樹、街路灯の設置など、計画的な街路修景を重点的に進めるなど環境整備を図るほか、住民の理解と協力を得ながら、周辺の景観に適するよう建造物の修復や土産品店、レストハウス等の導入を促進するなど、ロマンと異国情緒を強くアピールするエキゾチックタウンの形成に努める。

更に、散策者の安全確保と景観維持のため、駐車禁止、乗入規制などの交通規制を図るほか、駐車場の整備に努める。

## ウ ウォーターフロントの整備

港まち函館のイメージを高める観光ポイントのひとつとして、臨港部の整備活用を積極的に進める。

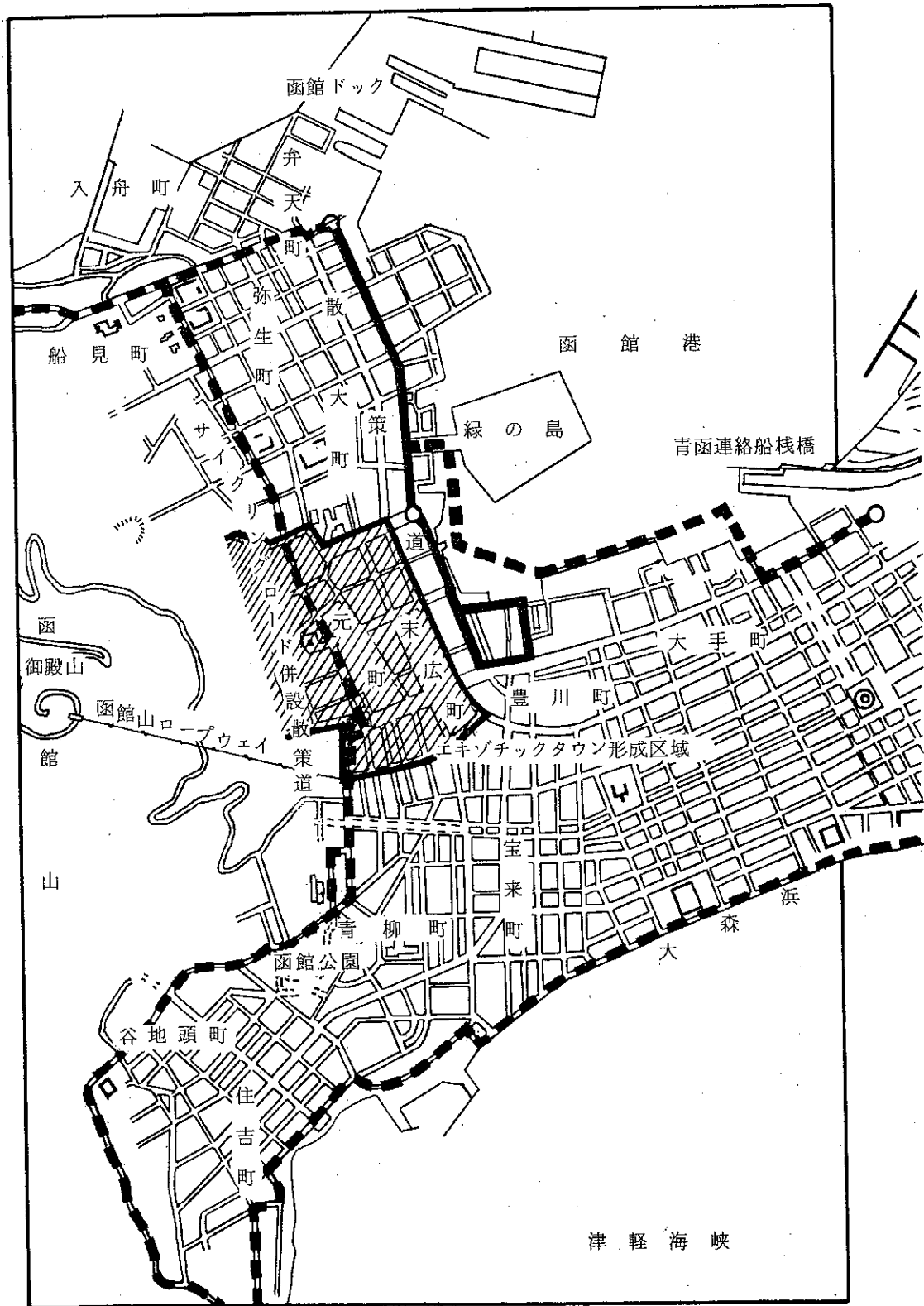
駅前・朝市地区から西埠頭に至るウォーターフロントについては、湾岸道路の建設とあわせ街路灯の設置、植樹など、街路環境の美化を図り、快適で魅力ある散策道として整備を推進する。

特に、元町公園地区との結節点にあたる金森倉庫付近から新島裏海外渡航の地碑近隣までの一帯を臨海公園として、市民や観光客の憩いの場となるよう海浜空間の確保に努める。海浜空間には、歴史的なモニュメントを配するほか、植栽修景や便益施設の整備を進めるとともに、旧函館郵便局々舎並びに金森倉庫群は、歴史的、文化財的価値を損うことなく、レジャー機能を有する観光資源として有効活用を促進し、元町公園地区及び緑の島と調和のとれた景観美の形成を図る。

更に、この地区から弁天町にかけての西部臨港線沿いには、明治、大正時代の建物など、往時の面影を残しているものも多いため、これら建物を保護、保全するとともに、景観に適した建物の復原などを図り、港まち函館らしい情緒溢れる「通り」として環境整備を進め、新たな観光資源としての創出を図る。

一方、津軽海峡に面する臨海部は、下北半島、津軽半島及び汐首岬など、雄大な海峡景観や漁火の眺望が楽しめるため、立待岬から大森町方面に至る大森浜側をサイクリングロードの機能をもつ海峡散策道としての整備を進め、新たな観光名所とするとともに、臨港部の散策道との有機的な連携を強める。

28図 元町公園地区周辺とウォーターフロント計画



## エ 緑の島の整備

緑の島は、函館を象徴する函館山と異国情緒豊かな西部のまち並みとが融合した景観を背景に、港のシンボル緑地として造成するものであるが、函館山から俯瞰する景観やウォーターフロントとの調和に留意した整備を推進する。

緑の島は、西部地区観光の動線上に隣接し、交通便利な位置にあるなど、立地条件に恵まれているため、スポーツ・レクリエーション施設や海上遊覧の発着施設の設置を図るとともに、係留船舶の見学、緑の中での憩いなど、幅広いレジャー機能を有する水と緑に囲まれた魅力ある海上公園として整備を推進する。

また、緑の島の整備に際しては、函館山からの眺望を重要視し、象形的な修景に努めるなど、景観美の形成を図る。

## オ 外人墓地周辺の整備

立待岬とならび西部散策コースの拠点となっている外人墓地は、開港の歴史を偲ばせ、異国情緒を高める観光資源として貴重なものであり、周辺には明治期の函館検疫所台町措置場をはじめ、中国人墓地の「中華山荘」、南部藩士の墓等の資源があり、これらを生かした環境整備を進め、より一層観光価値を高める。

このため、外人墓地周辺に園路を設けるとともに、植栽、照明、ベンチを配置するほか、付近に休憩施設のある観光広場や駐車場を整備するなど公園化を図る。

また、外人墓地に至る散策コースには、高龍寺をはじめ称名寺などが連なり、寺町を形成しているほか、旧ロシア領事館、山上大神宮などがあり、元町地区とは異なったまち並みを形成しているため、沿道に街路灯の設置や植栽修景を行うとともに、寺院内にある歴史的な墓碑の整備に努めるなど、散策コースの充実を図る。

## カ 立待岬・碧血碑周辺の整備

雄大な海岸線や津軽の山並みが眺望できる自然景観と啄木一族の墓などのある立待岬は、観光コースとして駐車場等の整備が進められてきたが、更に道路の整備、周辺環境の緑化を推進するとともに、休憩施設や海浜に通ずる



道路の整備を進め、海浜レクリエーションの場として海との結合性を高める。

また、碧血碑周辺については、植樹や草花による修景を進めるほか、便所などの便益施設の設置を図り、立待岬や由緒ある函館公園との連結性を強め、散策コースとしての魅力アップに努める。

### (3) 函館山地区

函館山は、本市における観光資源の中で、夜景の美しさを観賞できる所として抜群の評価を得ており、訪れる観光客は多数に及んでいる。また、唯一の風致公園として、市民の憩いの場、レクリエーションの場として広く親しまれ利用されている。

このように、重要な観光資源であると同時に、市民の貴重な財産であることを踏まえ、自然保護に配慮しつつ、自然保全地域、市民的利用地域、観光施設地域の利用区分を明確にし、調和のとれた整備を推進する。

また、寒川地区については、恵まれた海岸美を生かした新たな観光名所としての整備を図る。

#### ア 登山機能の整備

観光シーズンにおける登山道路の交通渋滞を解消するため、山麓に駐車場の建設を進め、自家用自動車については登山規制時間を拡大するなど抑制を図るとともに、代替輸送機関としてロープウェイの整備拡充、登山バスの充実に努める。

更に、観光バスなど大型自動車の安全運行を確保するため、登山道路の改良整備、照明灯の設置を進め、観光道路として一層の機能強化を図る。

#### イ 展望施設の整備

現施設は、構造的に、また、機能的にも観光客等の欲求を満足させていないため、快適な環境の中で眺望を楽しむことができるよう、展望施設を全面改築し、函館山に関する資料の展示をはじめレストランなど、便益施設の整備を図る。

改築にあたっては、山頂景観に適した配置、色調などを十分配慮するとともに、函館のシンボルタワー的な要素を付加するほか、ロープウェイ駅舎と有機的な結合を図り、観光客の利便性を高めるなどの整備に努める。

更に、山頂における濃霧などに対処するため、景観を觀賞できる適地に代替展望地を設けるよう努める。

また、山頂からの夜景美をより一層高めるため、照明の計画的設置を図るほか、日中の景観についても、家屋の彩色を市民の理解と協力を得ながら積極的に推進する。

#### ウ 散策遊歩道等の整備

散策遊歩道については、眺望が楽しめる御殿山・千畳敷コースをはじめ、深山の雰囲気漂う宮の森コース、いろいろな野鳥の声が聞ける旧山道コースなど、それぞれが持つ特色を生かしながら植樹帯の設置、ベンチなどの休息施設の整備を図るほか、案内標識、動植物の分布・生息状況を紹介する説明板を設けるなど、ハイキングコースとしての魅力づくりに努める。

更に、風致公園として機能を高めるため、千畳敷はピクニック広場として、水元谷は逍遥園地として整備を進め、散策遊歩道と有機的な結合を図るとともに、遊歩道と車道との交差箇所を改良するなど、安全性を高め、快適なレクリエーションの場として整備充実に努める。

また、点在する旧函館山要塞跡については、修復をはかり史跡として活用するため、花木植栽などによる修景事業の実施、誘導標識、由来説明板を設置するなど、環境整備を推進する。

#### エ 寒川地区の整備

函館山の裏側は、澄んだ海と奇勝・奇岩に富み冷泉が湧出するなど、優れた自然に囲まれており、海浜レクリエーションに適した場であるため、内在する諸問題を考慮しつつ船着場の設置を図り、海上遊覧の立寄り地点とするほか、海岸一帯を周遊する道路等の建設をはじめ、海中展望施設や冷泉を活用したレストハウスの設置について検討を進める。

#### (4) 五稜郭周辺地区

特別史跡「五稜郭跡」は、わが国の北辺防備を目的に築造された洋式城塞跡であり、徳川幕府の終えんを告げることとなった国内戦争最後の舞台である。したがって、その歴史とともに貴重な史跡である。

このため、五稜郭跡については近代日本の夜明けを伝える魅力ある歴史公

園として整備し、隣接地に建設を予定している総合文化センターとの相乗的な観光活用を図るほか、四稜郭、土方歳三最期の地碑、碧血碑など関連する資源整備を進め、これらを有機的に結んだ観光ルートの確立を図る。

また、周辺環境整備の一環として、五稜郭土地区画整理事業の早期完成を積極的に促進する。

#### ア 特別史跡「五稜郭跡」の整備

五稜郭跡については、兵糧庫、一の橋、二の橋をはじめ、石垣、表門、裏門など遺構整備が進められているが、五稜郭跡の歴史的な姿を表現するため、郭内の旧箱館奉行所をはじめ、付属する建造物等の復原を図り、旧箱館奉行所については箱館戦争を中心とした資料を展示する歴史館とするほか、史実に基づく兵器類を復原、配置するなど、当時の様相の再現に努める。

また、箱館戦争に関連の深い人物の銅像の建立を促進するとともに、郭外をめぐる園路の整備を推進する。

一方、車による観光客に対処するため、駐車場の確保に努めるとともに、周辺道路の交通体系を見直し、交通動線の円滑化を図る。

#### イ 史跡「四稜郭」の整備

四稜郭は、五稜郭北面の守備のために築造した小規模な砦であるが、五稜郭と同様の築城法によるわが国最新の洋式砦として貴重な史跡であるため、道路の整備を推進するなど、五稜郭跡との連携を強化するとともに、周辺に展望台の設置を図る。

また、歴史的に重要な意義を有し四稜郭と深いかかわりを持つ権現台場については、新たな観光資源として復原を図るほか、周辺に植栽等の修景を施すなど整備を推進する。

#### ウ 土方歳三最期の地碑等の整備

新撰組の副隊長として名高く、箱館戦争において劇的な最期を遂げた土方歳三については、知名度の高さや人気の持続性、更に駅と至近距離にある地理的条件から主要な観光資源となり得るが、現在地は路上の中央分離帯にあり観光価値を損ねているため、周辺適地に移転を行い、土方歳三公園として造成を進め、銅像の建立をはじめ植栽などの修景事業の実施、便益施設の設置など、環境整備に努め、新たな観光名所としての創出を図る。

また、土方歳三と同様に悲壮な最期を遂げた中島三郎助父子の地碑についても、路上グリーンベルト内に立地しているため、付近の路上駐車禁止をはじめ、石碑周辺的环境整備を推進し、観光資源としての活用を図る。

#### (5) 湯の川周辺地区

湯の川周辺地区は、温泉をはじめトラピスチヌ修道院、史跡「志苔館跡」、見晴公園などのすぐれた資源を有しているほか、国内幹線として重要な函館空港を擁するなど、立地条件に恵まれている。

こうした優位性を生かし、湯の川温泉街については温泉地のイメージを高め、宿泊拠点として地位の向上を図るための再開発を促進するほか、レジャー・レクリエーション機能並びに療養、健康増進機能の充実に努める。

また、トラピスチヌ修道院周辺については、その特性から画一的な観光地化を避けながら、周辺地区の環境整備を推進するとともに、志苔館跡や見晴公園の整備を図り回遊性を高める。

更に、空港から温泉街に至る道路沿線に植樹を行うなど、沿道の美化に努める。

#### ア 湯の川温泉街の整備

魅力ある温泉街としての発展を図るため、ホテル・旅館の経営基盤整備を中心に、土産品、飲食娯楽施設の配置、温泉大プール及び温泉センターの建設、サービスセンター並びに共同駐車場の設置、ナイトレジャーの導入、更には国際的な会議や行催事のできる施設の整備など、温泉本来の療養機能を生かした滞在型宿泊地とし、来たるべき高齢化社会に対処する再開発の計画策定を促進する。

また、熱帯植物園の充実に努め、根崎運動公園、湯浜公園の整備に努めるほか、松林、川、海浜を有効に活用した海浜遊歩道の設置などの整備を進めるとともに、松倉川等河川の浄化に努め、魚類の回遊を促し河口付近におけるイベントや味覚の用に供する。

#### イ トラピスチヌ修道院周辺の整備

トラピスチヌ修道院のもつ神秘性、異国的情緒を保持するため、周辺環境の保全に努め、隣接する市民の森の整備充実に進めるとともに、沿道に桂な

ど適切な樹種の植樹を進め、並木道の形成を図り、修道院のイメージを高めるほか、近接する見晴公園の整備充実を進め連結性を強める。

また、車による観光客の増加に対処するため、道路整備を進め一方通行を実施するなど、交通動線の円滑化を図る。

#### ウ 史跡「志苔館跡」の整備

志苔館跡は、室町時代中期からの館であり、付近から同時代の大きな伽藍や大量の古銭が出土するなど歴史的に貴重な資源である。

このため、館跡の発掘など史跡公園としての整備を進めるとともに、修景事業をはじめ案内標識の設置など周辺環境の整備を図る。

#### (6) その他地区

拠点5地区のほかに、新たな名所として雄大な眺望が楽しめる東山をはじめ、サイベ沢遺跡、笹流ダムなど多くの資源があるため、レジャー・レクリエーションの場として必要な整備を進め、これら資源の有効活用を図る。

また、拠点5地区や他の資源を円滑に連絡させるため、案内標示などの設置に努めるとともに、これらを結ぶ観光ルート沿線に植樹を進めるなど、沿道緑化を推進する。

特に、啄木小公園については、公園用地を拡大しハマナスの植栽を進めるとともに、道路側に常緑樹を植生させるなど、公園修景の整備を図る。

## 2 その他整備

### (1) 水族館の建設

市民や観光客のレクリエーション欲求に対処し、水族館の建設を推進する。水族館は、本市の特色を十分に生かすとともに、通年開館を目指し、市民や観光客の憩いの場とする施設を併置する。

### (2) 幹線道路の整備

地域の産業経済の振興をはじめ、自動車による観光客の増加に対処するため、北海道縦貫自動車道（函館一洞爺間）及び、市内交通の渋滞を緩和する新外環状線の早期建設を図るほか、国道5号線バイパスの早期完成など、広域幹線としての道路体系の整備を積極的に促進する。

### (3) 函館空港の整備

航空利用客の増大に対処するため、国内幹線空港として滑走路の延長をはじめ国内主要路線の拡充などを図るほか、国際観光都市指向のための空港施設の整備に努め、官民一体となって国際化を推進する。

また、騒音公害防止の観点から、空港周辺における緩衝緑地の推進を図る。

## 3 函館市周辺地域整備

本市の近郊には大沼国定公園等多彩な観光資源があり、本市と相互補完の関係を形成しているが、特に、自然資源の多い大沼地区は道南観光圏の核としてレクリエーション機能を高める必要があり、観光レクリエーション施設等について地区の実情に即した整備を促進し、相乗効果を高めるよう関係町との緊密なる連携と協調を強める。

また、恵山、松前、江差地区などについては、それぞれの地区の状況や観光特性を生かして各種施設の整備を図るよう協力を要請する。

## 主な整備要望事項

### (大沼地区)

- 大沼大規模年金保養基地の充実
- 青少年の利用を主体とした「自然の森」の建設
- 蓴菜沼周遊サイクリングロード、自然探勝路、キャンプ場の建設
- 学術、文化交流をはじめ各種大会の開催の場となる国際会議場の建設
- 大規模スキー場の建設並びに既存スキー場の整備充実
- 歩くスキーコース、スケート場の整備拡充と冬季イベントの開発普及
- 横津岳～大沼を結ぶ道路の整備
- 駒ヶ岳周遊道路及び展望施設の建設

### (大野地区)

- 八郎沼総合公園の整備充実と宣伝の強化
- 水田発祥記念碑周辺の小公園整備
- 水田発祥記念碑、八郎沼総合公園、観音山展望台、木地挽山の各観光コースの整備

### (上磯地区)

- 松前藩戸切地陣屋跡の早期復原と周辺環境の整備
- 当別トラピスト修道院周辺の環境保全
- 釜の仙境ハイキングコースの整備

### (共通)

- 仁山高原～八郎沼～松前藩戸切地陣屋跡～釜の仙境を結ぶドライブコースの設定

### 第3 広域観光圏と観光ルート

多様化した観光レクリエーション需要に対応するため、本市周辺の観光地区相互間の連携と補完を強め、多様な機能を持った魅力ある広域観光圏の形成を図る。

#### 1 広域観光圏の形成

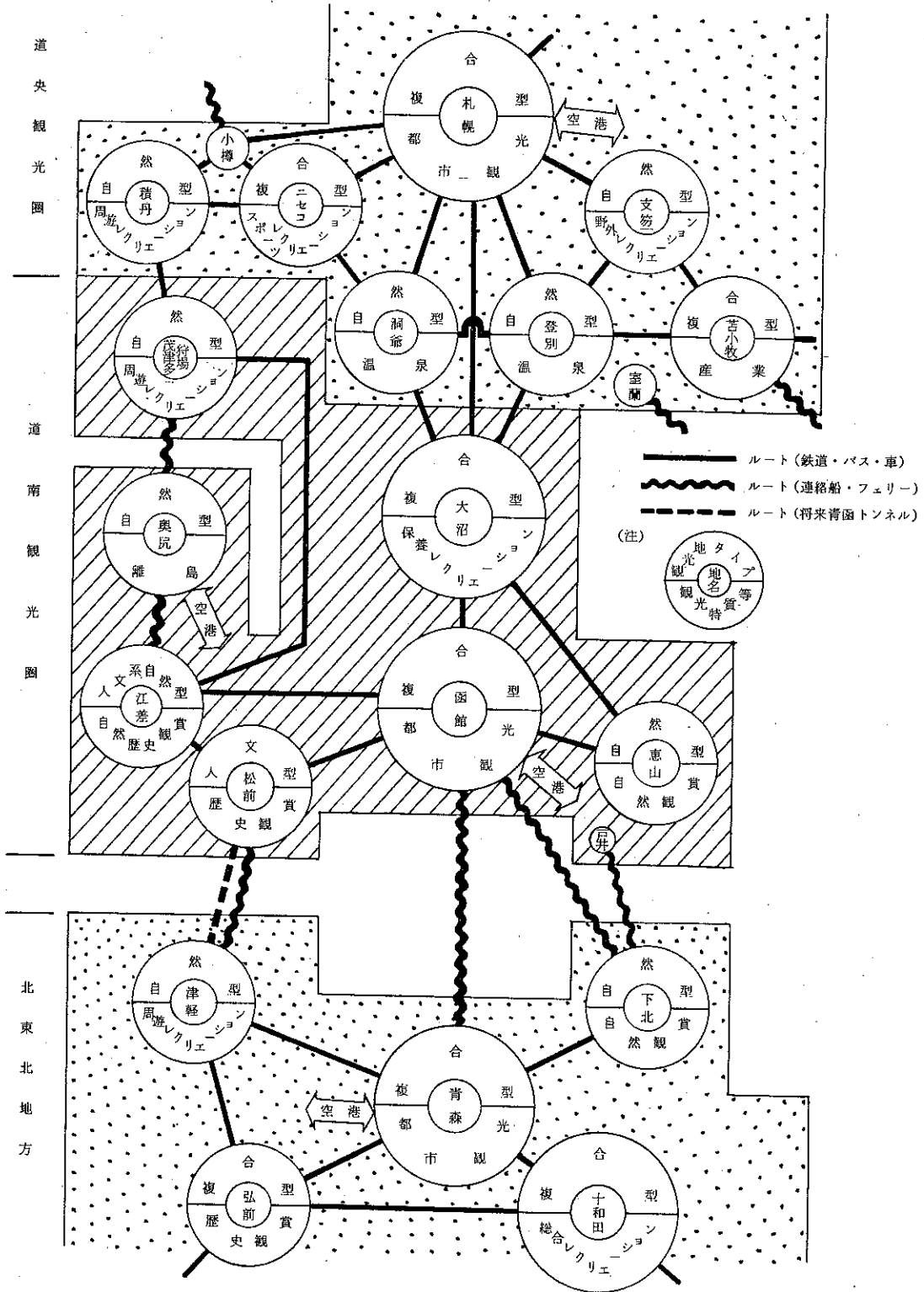
道南観光圏内の各観光地の持つ自然的、社会的特性を生かした個性ある整備を進め、函館、大沼、恵山周辺地区にあっては本市を中心に大沼、恵山との有機的連携をより一層高め、「みなみ北海道オーシャンライン」の充実を図るとともに道内の核となっている札幌市をはじめ、洞爺湖、登別温泉、支笏湖、ニセコなどを擁する道央観光圏との結びつきを深める。

また、江差、松前地区においては「追分ソーランライン」の中継基地として、奥尻島においては洋上観光を含む離島観光地として、狩場茂津多地区においては山岳・海岸景観など優れた自然を楽しめる周遊観光レクリエーション地として、「北海道観光圏別整備基本計画」に基づく整備を進めるなど、それぞれ機能の分担を行い相互の補完関係の強化に努めるよう緊密な連携を図る。

更に、北東北地方との一体化した観光圏を形成するため、道南観光圏においては函館市を、北東北地方においては十和田湖を中核とする広域観光圏の確立を図り、緊密な連携のもとに域内交通網を整備し、情報の交換、観光案内機能の充実など、相互受入態勢の強化に努める。



29図 広域観光圏の構成と体系図



## 2 広域観光ルートの設定

広域観光ルートについては、観光資源の分布、交通体系、観光客の動態等を勘案して幹線を主体にネットし、函館、大沼、青森、十和田湖の各観光拠点を結ぶルートを基幹に、それぞれ周辺観光地を効率的に結ぶ内陸周遊、沿岸周辺などのルートの設定を図る。

特に、道南観光圏については、本市を起終点に恵山を中継地点とする「オーシャンライン」と、松前、江差を中継基地とする「追分ソーランライン」を有機的に結合し、周遊性を高めるルートの設定を図る。

ルートの設定に当たっては、関係市町村・団体との緊密な連携を図りつつ進めるものとし、道南観光圏内においては、本市が連絡調整に努めるなど主導的立場で積極的に推進する。

### (基幹ルート)

<道央観光圏> ー長万部ー大沼ー函館 〰 青森ー十和田湖ー<域外>

### (幹線ルート)

函館ー大沼ー洞爺湖ー中山峠ー札幌

函館ー大沼ー長万部ー倶知安ー小樽ー札幌

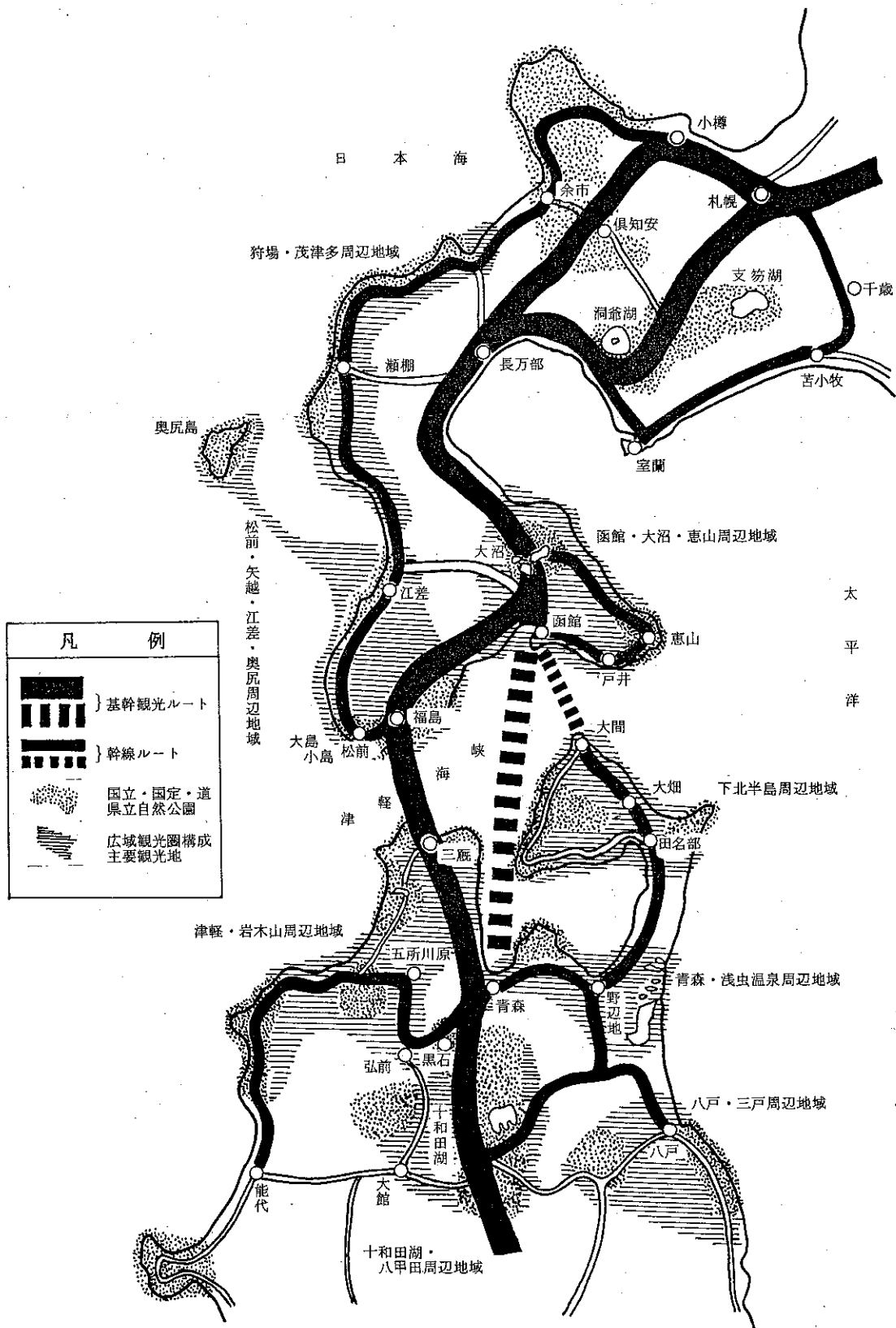
函館ー恵山ー長万部ー室蘭ー苫小牧

函館ー松前ー江差ー(〰 奥尻 〰)ー瀬棚ー積丹ー小樽ー札幌

函館ー大沼ー恵山(戸井) 〰 (大間) 下北ー青森ー十和田湖

函館ー江差ー松前ー津軽ー弘前ー十和田湖ー青森

30図 道南観光圏、北東北地方の広域観光ルート



### 3 観光コースの設定

本市及び近郊における観光コースの設定に当たっては、今後整備を図ることにより価値の高まる観光資源などを勘案し、基本となるコースを設ける。

市内においては、基本コースを軸として多様なニーズに応えるよう、「異国情緒めぐり」、「開港とペリー来航めぐり」、「箱館戦争めぐり」、「文学めぐり」、「函館事始めめぐり」などのモデルコースを設定する。

更に、新たに函館山裏側の海上遊覧や函館と上磯を結ぶ海上遊覧コースの設定を図るとともに、従来の散策コースのほかに、元町公園地区周辺（エキゾチックタウン）とウォーターフロントを結ぶコースと、駅前地区から西部地区を経て海峡沿いに大森橋前に至るサイクリングコースを設けるなど、観光コースの拡充を図る。

なお、これらのコースは社会環境の変化や観光客の流動に応じ、弾力的に対応するものとする。

9表 観 光 コ ー ス

種 類	コ ー ス の 内 容
<基本コース> 市 内  近 郊	函館駅－立待岬（碧血碑、函館公園ほか）－函館山－元町公園地区（ハリストス正教会、元町公園、中華会館ほか）－外人墓地－ウォーターフロント（緑の島、新島裏海外渡航の地碑、金森倉庫群ほか）－五稜郭公園地区－トラピスチヌ修道院－湯の川（熱帯植物園ほか）－函館駅  函館駅－函館山－元町公園地区－トラピスチヌ修道院－五稜郭公園－当別トラピスト修道院－大沼－函館駅 <1日コース> 函館－恵山－鹿部－大沼－函館（市内観光）－函館 <2日コース> 函館－当別トラピスト修道院－福島－松前－江差－函館（市内観光）－函館 <2日コース> 函館－大沼－八雲－熊石－江差－函館（市内観光）－函館 <3日コース>
<サイクリングコース>	函館駅前－金森倉庫群－旧栈橋－新島裏海外渡航の地碑－太刀川家住宅店舗－巖島神社－外人墓地－元町公園－函館公園－碧血碑－立待岬－住吉漁港－大森橋前－函館駅前

## 第4 観光宣伝の強化

観光宣伝は、観光客に対して観光情報を伝え、観光意欲を喚起するほか、知名度を高める役割を担っているとともに、観光地のイメージを強くアピールするなど、観光客誘致のための有効な手段として重要視される分野である。

したがって、関係市町村、機関・団体等の連携を緊密にし、官民における機能の分担と補完の関係を確立して、広域的観点に立った活動が必要である。

このため、広域観光宣伝体制の確立を図り各種大会、修学旅行、団体客誘致キャラバンの派遣をはじめ、特色ある観光物産展、観光写真展などの開催を進めるとともに、マスコミや口コミの利用を重視し、旅行誌、週刊誌等記者の招へい取材及び現地における懇談会の実施、郷土出身の知名人や組織の活用を図るほか、有力企業における宣伝に本市の観光素材を提供するなどタイアップに努め、交通機関や旅行者に対する情報の提供をはじめ、共同キャンペーンを行うなど積極的な活動を進める。

また、国際観光都市を指向するため、海外において開催する行事へ積極的に参加するなど、国際化に対応した宣伝に努める。

更に、広域観光情報の収集、提供体制の強化など情報ネットワークの整備を進めるほか、宣伝印刷物については誘致宣伝用、来函観光客用と、それぞれに対応した内容のパンフレット類を作成する。

宣伝活動を進めるにあたっては、宣伝の対象とすべき地域や年代層について状況を把握、分析するなど、市場性を十分勘案しつつ、本市観光資源の持つ特性を効果的にイメージさせるテーマを設定し、有効適切な方法の確立を図るなど、観光ニーズに対応した宣伝を展開する。

## 第5 接遇の充実とまちの美化

観光客は、恵まれた観光資源、良好な観光施設を有する観光地と同様に、観光客を温かい心で迎えてくれるきれいな観光地を、あるいは地域住民等とのふれあいができる観光地を求める傾向にある。

観光地では、宿泊、交通運輸、飲食、土産品など、観光客に対して各種の観光サービスの提供を行っているが、そこには観光客と観光サービス従事者との接触が持たれるほか、住民とは道案内や催事などにおいて接触する機会があり、それぞれの立場での接遇において観光客に満足を与えることは、観光地全体のイメージを高めることになる。

したがって、観光関係従事者はもとより、市民が一体となった地域ぐるみでまちをきれいにし、観光客を温かく迎える精神の涵養が必要である。

このため、市民が住みよく外部に誇れるまちとして、観光客の心に潤いと満足を与えるような環境の醸成を図るなど、次の事業を推進する。

- 関係機関・団体による観光関係従事者の接遇講習会を充実強化し、観光知識の普及向上に努めるとともに民間企業における日常のサービス研修の実施を促進する。
- 市民の郷土意識を高めるため、広報などを通じて積極的な啓発運動を行うほか、郷土の歴史・文化を学ぶ会など市民活動の充実に努める。
- 地域ぐるみで観光客を温かく迎えるため、「親切運動」などキャンペーンの実施を進めるとともに、観光コンパニオンをはじめ観光モニター制度の採用を図る。
- 市民による「まちをきれいにする運動」、「まちを緑にする運動」などの拡大を進めるとともに、各行政部門との連携を緊密にして清潔なまちづくりに努める。

## 第6 観光行事と物産

### 1 観光行事

近年、物量中心の経済成長の中で、人々は生活の質の向上、人と自然との調和、人と人との心の触れ合いや生きがいなど、精神的、文化的豊かさを求めるようになってきているが、観光活動の傾向としては、歴史的風土やまち並みをはじめ地方におけるローカルティーな行事、生活あるいは人との触れ合いを目的とする観光が増えている。

このため、本市の自然、風土、歴史から生まれた函館港まつり、箱館五稜郭祭など既存の行事については、観光的魅力を高めるための見直しを図り、個性ある行事として内容を充実するとともに、積極的な宣伝活動を展開するほか、新たに魅力ある行事の創出に努める。

- 函館の歴史を生かした行事の創出を促進し、その定着化を図る。
- 芸術・文化・スポーツについて個性的な行事の開催を促進するほか全国、全道規模の大会誘致を図り定着化に努める。
- 連絡船、路面電車など乗り物の観光的活用を図るため、これらを主体とする行事をはじめ各種行事への利用を促進する。
- 地場産品を素材として季節に応じた味覚フェスティバルなどの開催を促進する。

### 2 観光土産品と味覚

観光地の構成に重要な要素として観光土産品と郷土料理があり、これらは観光客の欲求を満たすものとして高いウェイトを占めている。

本市には、海産物等を素材とする土産品や郷土料理があり、好評を博しているものもあるが、それらの多くは画一化されており、観光客のニーズに対処できる土産品や郷土料理の創造、開発が必要である。

特に、土産品は観光客にとって欠かせないものであり、優れた商品は宣伝媒体としても機能し、観光地の評価を高めるものである。

このため、関係機関、業界との連携を強め、本市の特色を生かしたオリジナ

ル商品等の研究、開発を積極的に促進するほか、これら商品の周知、宣伝に努めるとともに、地場産品に対する知識の高揚、愛用キャンペーンの充実強化を図る。

#### (1) 観光土産品

本市には、地域の特性を生かした観光土産品があり、なかでも水産珍味加工品などの海産物をはじめ、乳製品、菓子類は良質のものも多いが、更に知名度を高めるため普及宣伝が必要である。また、民芸品等については、特産として代表するものが不足しており、開発の余地が多く残されている。

このため、関係業界の体制充実に努め、観光物産展等への積極的参加をはじめ実演即売会の開催など販路の拡大と普及の強化を図るとともに、新たな土産品を開発する研究体制を確立し、品質改良、新製品の開発を促進し、あわせて関連産業の育成を図る。

更に、地場産品製造工場の内部見学などの普及奨励に努め、産業観光の促進を図るほか、各施設等を利用して地場産品を紹介するなど宣伝普及に努める。

#### (2) 郷土料理

本市は、イカをはじめとする新鮮な魚介類や馬鈴薯等の農水産物に恵まれ、食べもののうまいところとして高い評価を受けているが、特に郷土料理として代表されるものがなく、本市の味覚観光の開発、整備が必要となっている。

このため、関係団体の連携を強め、研究、開発を促進するとともに、郷土料理コンテストを実施するなど、広く市民の英知を結集し、郷土の味の発掘に努め、郷土料理の創出を図る。

これら郷土料理については、既存の味覚も含め標準的なメニューと価格による提供を促進するとともに普及宣伝を図る。

更に、宿泊施設における食事についても、郷土料理を含めそれぞれ創意工夫した料理を提供するよう研修、講習会の開催を促進する。

また、郷土料理を中心とした味覚の行催事の開催を促進するなど、本市における味覚観光の向上を図る。



## 第7 計画の推進にあたって

### 1 計画の推進

本計画は、まちづくりの一環として観光振興を図り、来るべき交通新時代に対処するため、長期的、広域的視野のもとに策定したものであり、計画の実施にあたっては関係市町村、関係機関・団体及び市民などの理解と協力を得ながら総合的に推進するとともに、国、道が主体となって進めるべき事業については、その実施を積極的に要請するものとする。

また、観光振興は、複合的な施策として多岐の分野にわたるものであり、多額の資金を要するため計画の具現化にあたっては、多様化する観光客のニーズを的確に把握するとともに、観光志向の変化に対応して弾力的な運用を図る必要がある。

更に、民間企業の観光振興に果たす役割は大きくかつ重要であり、観光事業は経済活動として経営する分野が多くを占めるため、民間企業の積極的な参加を期待し、これらに対する国、道の各種助成制度の導入をはじめ、金融の円滑化に努めるとともに、官民共同方式による観光事業の推進を図るなど、地域をあげて本計画の実効ある推進に努める。

### 2 観光関係団体の育成

本市における観光関係団体は、一般団体や事業者団体等多数あり、観光を振興する上で、これら関係団体の活動と協力に負うところが多く、今後とも連携を深め、共同意識の高揚と組織の強化を図る。

特に、観光協会については、主導的な立場での活動が望まれるため、法人格の取得による体制の強化をはじめ、自主財源の確保など、財政基盤を確立するための指導育成を図る。

### 3 需要予測

昭和70年度における観光客入込み数及び観光消費額は、次のように見込まれる。推計に当たっては、過去のすう勢や国、道の予測などを勘案してマクロ推計をした。

区 分	単 位	昭 和 55 年 度	昭 和 70 年 度
観光客入込み数	千 人	2,668	4,500
観光消費額	百 万 円	38,000	91,000

- (注)
1. 昭和55年度観光客入込数は、商工観光部観光室調。
  2. 昭和55年度観光消費額は、観光アンケート調査による。
  3. 観光消費額は、昭和55年度価格。

### 4 所要資金

この計画における観光資源・施設等の整備事業にかかる所要資金は、おおむね次のように見込まれる。

区 分	単 位	総事業費	内 訳	
			公 共	民 間
観光資源施設整備	百万円	25,400	19,200	6,200
その他関連整備	〃	33,100	11,200	21,900
合 計	〃	58,500	30,400	28,100

- (注)
1. 公共投資については、推計可能な整備事業のみ計上した。
  2. 民間投資については、期待される整備事業のうち、推計可能なものを計上した。

資

料

# 北海道広域観光圏・道南観光圏観光地別入込数の推移

区分	年度	(単位:人)												
		46	47	48	49	50	51	52	53	54	55			
北海道	道北観光圏	58,624,235	62,766,250	69,188,726	74,315,249	72,422,176	77,215,394	72,640,069	76,488,490	78,309,692	82,665,211			
	道東観光圏	148,770,1	169,488,9	184,743,6	216,430,1	270,141,4	310,899,0	302,553,9	315,382,3	314,454,9	398,488,9			
	大雪山観光圏	99,003,95	10,566,430	11,960,260	13,643,932	12,688,550	14,102,066	13,971,441	14,065,836	14,002,303	15,827,175			
	道央観光圏	96,690,07	10,349,471	11,789,233	12,477,602	12,823,369	13,388,015	12,977,300	13,091,146	13,338,215	13,277,809			
	道南観光圏	31,653,453	33,781,432	36,184,177	38,553,249	37,245,126	39,645,490	35,649,280	38,442,901	39,846,403	41,347,645			
(函館)		59,136,719	63,740,228	74,076,200	74,716,155	69,857,117	70,198,333	70,165,509	77,347,884	79,782,222	82,216,993			
		(2,208,756)	(2,498,982)	(2,980,432)	(2,829,958)	(2,608,541)	(2,549,668)	(2,346,758)	(2,539,970)	(2,510,142)	(2,668,545)			
(大沼)		(1,770,773)	(2,041,655)	(2,349,892)	(2,456,204)	(2,358,362)	(2,369,628)	(2,289,312)	(2,406,045)	(2,553,360)	(2,473,941)			
		(278,105)	(350,031)	(385,460)	(413,175)	(442,915)	(451,595)	(388,084)	(387,902)	(415,482)	(438,541)			
(松前)		(8,699,50)	(6,734,88)	(8,131,71)	(8,600,00)	(6,904,42)	(7,220,54)	(6,514,79)	(6,875,85)	(7,186,85)	(6,920,77)			
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(24,450,7)	(23,587,5)	(24,078,8)			
(長万部)		(3,980,30)	(3,601,58)	(3,855,88)	(3,847,27)	(3,623,41)	(3,680,68)	(3,472,20)	(3,438,59)	(3,466,93)	(3,811,35)			
		(3,202,09)	(3,746,45)	(4,121,10)	(4,450,91)	(4,479,33)	(4,709,57)	(5,689,18)	(6,076,84)	(6,491,5)	(6,493,54)			
(峠石)		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(224,953)	(252,835)	(274,897)	(275,525)			
(奥尻)		(6,785,6)	(7,506,9)	(8,096,7)	(8,791,0)	(7,518,3)	(8,786,3)	(8,736,2)	(10,957,1)	(11,972,1)	(11,608,2)			
(南狩場茂津多)		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(144,423)	(154,826)	(161,452)	(174,635)			
(大成)		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(114,070)			

※大沼には仁山を含む

# 函館・大沼の道外・道内・日帰り・宿泊別入込み数の推移

区分	年度	(単位:人)												
		46	47	48	49	50	51	52	53	54	55			
函館	総数	2,208,756	2,498,982	2,980,432	2,829,958	2,608,541	2,549,668	2,346,758	2,539,970	2,510,142	2,668,545			
	道外客	1,337,622	1,641,239	1,751,726	1,672,016	1,544,446	1,479,044	1,310,279	1,413,339	1,383,366	1,392,292			
	道内客	871,134	857,743	1,228,706	1,157,012	1,064,095	1,070,624	1,036,479	1,126,331	1,124,776	1,276,253			
	日帰り客	943,175	1,092,846	1,496,311	1,393,096	1,301,314	1,267,055	1,172,594	1,268,761	1,142,505	1,213,009			
	宿泊客	1,255,581	1,406,136	1,484,121	1,435,922	1,307,227	1,282,613	1,174,164	1,271,209	1,367,637	1,455,536			
	宿泊数(延)	1,255,581	1,406,136	1,484,121	1,435,922	1,307,227	1,282,613	1,332,510	1,806,566	1,952,529	2,080,345			
大沼	総数	1,770,773	2,041,655	2,349,892	2,456,204	2,358,362	2,369,628	2,289,312	2,406,045	2,553,360	2,473,941			
	道外客	640,534	662,098	729,789	775,233	718,197	677,252	625,058	665,160	715,155	627,355			
	道内客	1,130,239	1,379,557	1,620,103	1,680,971	1,640,165	1,692,376	1,664,254	1,740,285	1,838,205	1,846,576			
	日帰り客	1,574,485	1,823,539	2,101,598	2,206,555	2,144,189	2,162,160	2,085,703	2,193,902	2,332,180	2,251,391			
	宿泊客	196,288	218,116	248,294	249,639	214,173	207,468	203,609	212,143	221,180	222,550			
	宿泊数(延)	197,515	220,097	251,902	250,267	215,106	208,040	204,100	212,766	221,845	222,907			

資料 北海道商工観光部

※大沼には仁山を含む

# 観光施設別利用者の推移

	昭和50～55年度までの利用状況					昭和55年度月別利用状況												
	昭和50年度	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
函館山ロープウェイ	329,243	285,960	264,177	297,859	317,326	313,780	16,608	44,090	30,632	40,448	81,910	37,184	18,341	70,555	38,338	65,889	101,741	169,111
五稜郭タワー	311,247	306,490	301,813	332,839	352,387	398,385	9,585	76,844	54,000	55,725	90,652	45,638	30,325	123,451	38,081	40,111	65,577	88,751
熱帯植物園	227,677	207,976	185,188	187,424	198,549	194,649	11,043	38,363	28,022	22,592	37,920	19,456	11,347	6,346	22,581	49,091	5,301	7,092
港内遊覧船	—	12,415	9,885	10,342	11,064	8,921	—	3,297	983	1,934	1,700	1,007	—	—	—	—	—	—
観光馬車	—	7,024	6,871	6,909	6,872	6,467	—	729	798	1,123	2,070	1,020	727	—	—	—	—	—
総計	868,167	819,865	767,934	835,373	886,198	922,202	37,236	163,323	114,435	121,822	214,252	104,305	60,740	25,746	9,904	15,509	22,052	32,878

資料 函館市商工観光部観光室

# 博物館入館者の推移

	昭和50～55年度までの利用状況					昭和55年度月別利用状況												
	昭和50年度	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
函館博物館	42,614	36,549	34,084	38,904	45,122	47,506	7,627	19,839	10,125	10,971	36,431	12,998	14,998	8,021	26,711	27,111	35,911	68,011
五稜郭分館	119,403	77,777	85,395	75,440	88,300	89,942	2,627	17,707	12,322	13,106	25,020	9,515	4,750	27,441	4,851	22,111	8,781	5,671
郷土資料館	6,797	7,918	9,320	10,348	13,026	13,723	567	1,278	1,148	1,708	3,469	1,566	966	578	265	198	1,196	784
総計	168,814	122,244	128,799	124,692	146,448	151,171	10,821	38,824	23,595	15,911	32,132	12,379	7,214	4,124	10,171	6,901	24,331	20,311

資料 市立函館博物館

## 函館市の観光資源・施設

自 然 資 源						寺 名 称
山   河川景観等   海岸景観   温泉	函	館	山	郷土景観  歴史的建造物	実	行 寺
	東		山		東	本願寺函館別院
	紅	葉	山		東	本願寺函館別院船見支院
	汐	泊	川		高	野 寺
	松	倉	川		地	蔵 寺
	矢	別	ム		大	円 寺
	中	野	ム		永	全寺納骨堂など
	笹	流	ム		西	部地区まち並み
	立	待	岬		函	館 港
	穴	洞・寒	川		重	要文化財 太刀川家住宅店舗
大	森	浜	"	旧函館区公会堂		
湯	の	川	(道)	文化財 旧金森洋物店		
谷	地	頭	"	旧函館博物館1号		
蓬		菜	"	旧函館博物館2号		
人 文 資 源						(市)文化財
寺 院	ハリストス正教会			"	旧北海道庁函館支庁庁舎	
	カトリック教会			"	旧開拓使函館支庁レンガ造書庫	
	聖ヨハネ教会			"	旧イギリス領事館	
	日本基督教団函館教会			旧	ロシア領事館	
	トラピスチヌ修道院			中	華 会 館	
	◇			相	馬 株 式 会 社	
	護	国	社	旧	函 館 郵 便 局	
	函	八	幡	金	森 倉 庫 群	
	巖	島	社	大	町 郵 便 局	
	亀	八	幡	遺	愛女子高校旧宣教師館	
	船	魂	社	旧	函 館 師 範 学 校 校 舎	
	山	大	宮	ほ	か公共、商社、民家など40件	
	豊	荷	社	◇		
	湯	倉	社	日	本最古のコンクリート電柱	
	高	龍	寺	函	館 の 上 水 道	
				史跡・遺跡	特別史跡 「五稜郭跡」	
				史 跡	「四稜郭」	

	<p>史 跡 「志 苔 館 跡」</p> <p>◇</p> <p>志海苔古銭出土地        サイベ沢遺跡        箱館奉行所跡        旧東照宮と権現台場跡        ペリー会見所跡        運上・所跡        弁天台場跡        高田屋敷跡        函館気候測量所跡        咬菜園跡        首菴社跡        啄木居住地跡        臼岸河野館跡</p>	<p>阿部たつを歌碑        阿部慧月句碑        巖谷小波句碑        世民長谷川先生の碑</p> <p>◇</p> <p>碧血碑        柳川熊吉翁寿碑        土方歳三最期の地碑        土方歳三と新撰組隊士の墓碑        中島三郎助父子最期の地碑        傷心惨目の碑        南部藩陣歿者供養塔        南部藩士の墓        官修墓地        己巳役海軍戦死碑        高田屋嘉兵衛一族の墓        河野政通供養碑        貞治の碑        有無両縁塔        万平塚        天下の号外屋翁の墓        鯨族供養塔</p>
<p>公 園</p>	<p>函館公園        見晴公園        元町公園        啄木小公園</p>	<p>伊能忠敬記念標        武田斐三郎の妻美那子の墓        続豊治の墓        外人墓地        ジョンミルン妻トネミルンの墓        ブラキストン記念碑        ハーバー遭難記念碑</p>
<p>碑 ・ 像</p>	<p>石川啄木一族の墓        啄木歌碑        与謝野寛晶子夫妻の歌碑        西条八十の詩碑        宮崎郁雨の歌碑        砂山影二の歌碑</p> <p>◇</p> <p>亀井勝一郎生誕の地碑        亀井勝一郎文学碑</p> <p>◇</p> <p>高橋掬太郎歌碑        片平庸人詩碑        宮本小一詩碑        孤山堂無外句碑        武藤善友歌碑</p>	<p>◇</p> <p>新島襄海外渡航の地碑        北海道第一歩の地碑        明治天皇御上陸記念碑        北海道写真発祥の地碑</p>

	湯の川温泉発祥の地碑 ◇	観光レクリエーション施設
行事	高田屋嘉兵衛銅像 啄木の座像 平塚常次郎の像 久慈次郎像	観光 五稜郭タワー 函館山ロープウェイ 市営熱帯植物園 観光幌馬車 港内遊覧船
	大沼・函館雪と氷の祭典 雪まつりレクリエーション大会 函館さくらまつり 箱館五稜郭祭 高田屋嘉兵衛まつり 函館港まつり 市民レクリエーション大会 湯の川温泉納涼まつり	スポーツ・レクリエーション スキー場 1カ所 スケート場 1カ所 ゴルフ場 6カ所 フィールドアスレチックコース 2カ所 スポーツランド 1カ所 プール(市営1,民営1)2カ所
郷土芸能	巴 太 鼓	その他レクリエーション プラネタリウム 1カ所 タイヤ公園(市営)1カ所 交通公園(市営)1カ所
地域風俗	朝 市	競馬場 競輪場
味覚	いか (いか刺しなど) ホッ キ 貝 赤 貝 毛 が に こ ん ぶ わ か め そ の 他 魚 介 類 鮭 三 平 汁 ◇ ジ ャ ガ イ モ 赤 か ぶ ト ウ キ ビ ◇ ハ ム ・ ソ ー セ ー ジ バ タ ー 牛 乳	施設見学 水産加工場など 10カ所
公 共 施 設		
		教育施設 (市立) 函館博物館 " 五稜郭分館 " 郷土資料館 " 函館図書館 " 北洋資料館(建設中) 運動公園 千代台公園 " 根崎公園 市民会館 市民体育館



# 道南観光圏行事等一覧表

資料：社団法人 日本観光協会発行  
昭和56年版 全国観光情報ファイル

開催時期	名 称	開催地	観 光 地 域
1月 17 日 中 旬 下 旬	寒 中 み そ ぎ 八 雲 冬 ま つ り 大 沼・函 館 雪 と 氷 の 祭 典	木古内町 八雲町 七飯町	松前・矢越・江差・奥尻 函館・大沼・恵山 "
2月 上 旬	雪まつりレクリエーション大会	函館市	"
5月 上旬~中旬 上旬~下旬 上旬~下旬 中 旬 中 旬 中 旬 下 旬 下旬~6月上旬	函 館 さ く ら ま つ り 松 前 町 桜 祭 り 北 桧 山 水 仙 祭 箱 館 五 稜 郭 祭 森 町 桜 ま つ り さらんべ公園さくらまつり 南茅部さくらまつり 恵 山 つ つ じ 祭 り	" 松 前 町 北 桧 山 町 函 館 市 森 町 八 雲 町 南 茅 部 町 尻 岸 内 町	" 松前・矢越・江差・奥尻 狩場・茂津多 函館・大沼・恵山 " " " "
6月 第2日曜日 第2日曜日 22~23日	夷 王 山 祭 り 太 鼓 山 祭 り 賽 の 河 原 祭 り	上ノ国町 厚沢部町 奥尻町	松前・矢越・江差・奥尻 " "
7月 第1土・日曜日 上 旬 中 旬 中旬~下旬 23~24日 下 旬 下 旬 下 旬	か も め 島 祭 り 八 雲 町 牧 場 ま つ り 南 茅 部 昆 布 ま つ り キ リ ス ト 教 徒 殉 教 ミ サ 高 田 屋 嘉 兵 衛 ま つ り 大 沼 湖 水 ま つ り な べ つ る 祭 り 瀬 棚 漁 火 ま つ り 長 万 部 温 泉 ま つ り	江 差 町 八 雲 町 南 茅 部 町 福 島 町 函 館 市 七 飯 町 奥 尻 町 瀬 棚 町 長 万 部 町	" 函館・大沼・恵山 " 松前・矢越・江差・奥尻 函館・大沼・恵山 " 松前・矢越・江差・奥尻 狩場・茂津多 函館・大沼・恵山
8月 1~7日 上 旬 第2土曜日 9~11日 14~15日 15 日 第3日曜日 20~21日	函 館 港 ま つ り 松 前 神 社 祭 湯 の 川 温 泉 納 涼 ま つ り 姥 神 大 神 宮 祭 典 今 金 町 産 業 ま つ り 天 の 川 夏 ま つ り 湯 の 岱 温 泉 ま つ り 室 津 祭 り	函 館 市 松 前 町 函 館 市 江 差 町 今 金 町 上ノ国町 " 奥 尻 町	" 松前・矢越・江差・奥尻 函館・大沼・恵山 松前・矢越・江差・奥尻 狩場・茂津多 松前・矢越・江差・奥尻 " "
9月 15 日 第3日曜日	狩 場 登 山 会 江 差 追 分 全 国 大 会	瀬 棚 町 江 差 町	狩場・茂津多 松前・矢越・江差・奥尻
10月 中 旬 中 旬 中 旬	大 沼 紅 葉 ま つ り 南 茅 部 紅 葉 ま つ り 八 雲 あ き あ じ ま つ り	七 飯 町 南 茅 部 町 八 雲 町	函館・大沼・恵山 " "

# 函館市観光案内所の状況

資料 函館市商工観光部観光室

来所人員の推移

昭和50年度	昭和51年度		昭和52年度		昭和53年度		昭和54年度		昭和55年度	
	人員(人)	前年比(%)	人員(人)	前年比(%)	人員(人)	前年比(%)	人員(人)	前年比(%)	人員(人)	前年比(%)
112,661	100.912	89.6	87,914	87.1	98,505	112.0	80,182	81.4	142,633	177.8

来所者に対する案内件数の推移

昭和50年度	昭和51年度		昭和52年度		昭和53年度		昭和54年度		昭和55年度	
	件数(件)	前年比(%)	件数(件)	前年比(%)	件数(件)	前年比(%)	件数(件)	前年比(%)	件数(件)	前年比(%)
317,149	252,611	79.7	234,922	93.0	267,032	113.7	195,229	73.1	368,710	188.8

市内観光施設(観光地)の案内内容の推移

	昭和50年度		昭和51年度		昭和52年度		昭和53年度		昭和54年度		昭和55年度	
	内訳	件数(件)	内訳	件数(件)	内訳	件数(件)	内訳	件数(件)	内訳	件数(件)	内訳	件数(件)
1	函館山	29,745	函館山	23,197	函館山	21,848	函館山	26,442	函館山	19,996	函館山	58,154
2	トラピスチヌ修道院	24,995	トラピスチヌ修道院	18,958	五稜郭公園	19,428	トラピスチヌ修道院	21,658	トラピスチヌ修道院	14,975	トラピスチヌ修道院	30,901
3	外人墓地	22,287	ハリストス正教会	18,533	外人墓地	19,261	五稜郭公園	20,544	五稜郭公園	13,683	五稜郭公園	25,013
4	五稜郭公園	21,031	五稜郭公園	17,379	トラピスチヌ修道院	17,315	ハリストス正教会	16,707	ハリストス正教会	9,205	ハリストス正教会	23,412
5	立待岬	20,410	外人墓地	16,996	ハリストス正教会	16,339	外人墓地	15,206	外人墓地	8,520	外人墓地	20,648
6	ハリストス正教会	19,864	立待岬	15,337	立待岬	14,997	立待岬	14,093	立待岬	7,641	立待岬	13,781

宿泊施設紹介件数の推移

	昭和50年度		昭和51年度		昭和52年度		昭和53年度		昭和54年度		昭和55年度	
	件数(件)	人員(人)	件数(件)	人員(人)	件数(件)	人員(人)	件数(件)	人員(人)	件数(件)	人員(人)	件数(件)	人員(人)
函館	6,825	13,328	6,018	11,563	5,031	9,704	4,980	9,854	4,828	9,608	6,280	11,970
前年比(%)			88.2	86.8	83.6	83.9	99.0	101.5	96.9	97.5	130.0	124.5
湯の川	1,445	3,227	1,349	2,880	735	1,657	944	2,165	969	2,073	1,058	2,330
前年比(%)			93.4	89.2	54.5	57.5	128.4	130.7	102.6	95.8	109.1	112.3
合計	8,270	16,555	7,367	14,443	5,766	11,361	5,924	12,019	5,797	11,681	7,338	14,300
前年比(%)			89.1	87.2	78.3	78.7	102.7	105.8	97.9	97.2	126.5	122.4

# 昭和55年度 道南観光圏における観光宣伝印刷物

資料 函館市商工観光部観光室

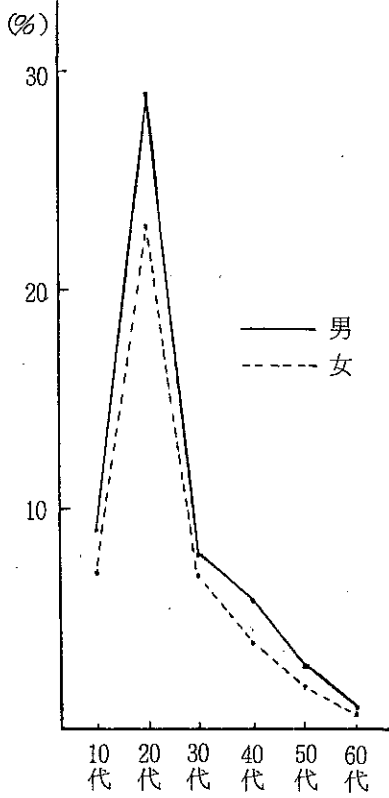
種類	表	題	発行者	規	格	部	数
パンフレット	歩いてみませんか 函	館(大型)	函館市	A4、24P、カラー		30,000	
	歩いてみませんか 函	館(中型)	"	170×230% 12P、カラー		70,000	
	函	と 下 北	関係市町村	205×195、12P カラー		10,950	
	函	館・青 森	青函観光宣伝協議会	205×200、12P カラー		10,000	
		みなみ北海道の旅	みなみ北海道観光連盟	205×200、48P カラー		20,000	
		大 沼・ONUMA	七 飯 町	115×220、16P カラー		5,000	
		最北の城下町まっまえ	松 前 町	210×200、20P カラー		20,000	
		HAKODATE	函 館 市	510×240、3つ折 カラー		40,000	
		はこだて観光ご案内	"	B4、カラー		100,000	
		はこだて観光のりもの案内	函館観光協会	B4		100,000	
リーフレット・チラシ	みなみ北海道		道分ソートライイン 推進協議会	B2、8つ折 カラー		30,000	
	大 沼・ONUMA		七 飯 町	440×330、6つ折 カラー		30,000	
	大沼国定公園のご案内		"	B4、カラー		50,000	
	松		松 前 町	850×200、6つ折 カラー		30,000	
	史跡と桜の里 松		松前観光協会	B4、3つ折、3色		30,000	
	恵		尻 岸 内 町	変形、7つ折 カラー		不明	
	恵 山 っ っ じ ま っ っ り		恵山観光協会	B4、2色		不明	
	みなみ北海道・ひやまの旅		崙山観光開発 協議会	A2、8つ折 カラー		20,000	
	道分のふる里をたずねて・江		江 差 町	変形、8つ折 カラー		50,000	
	江 差 案内説明 函		"	B4、カラー		50,000	
江 差 姥 神 大 神 宮 祭 典		江 差 観光協会	B4、2つ折 カラー		不明		

種類	表	題	発行者	規	格	部	数
ポスター	観光ガイドブック・はこだて		函館観光協会	B5、68P 表紙カラー		8,000	
	江差観光ガイドブック		江差観光協会	A6、60P、カラー		20,000	
	みなみ北海道・観光百選		みなみ北海道 観光百選事務局	110×200、76P カラー		不明	
	はこだて		函 館 市	B1、カラー		6,000	
	HAKODATE(冬用)		"	B1、カラー		40,000	
	HAKODATE(夏用)		"	B2、カラー		40,000	
	函館港まつり		港まつり協賛会	B1、カラー		10,000	
	箱館五稜郭祭		実行委員会	B1、カラー		10,000	
	大 沼		七 飯 町	B2、カラー		15,000	
	大 沼		"	B2、カラー		15,000	
夕映えの海峡と天守閣 松		松 前 町	B1、カラー		16,000		
最北の城下町・松		"	B1、カラー		16,000		
恵		尻 岸 内 町	B1、カラー		20,000		
恵 山 っ っ じ 祭 り		尻岸内町 恵山観光協会	B1、カラー		10,000		
かもめ島まつり		実行委員会	B1、カラー		500		
江差姥神大神宮祭典		実行委員会	B1、カラー		500		
江 差 連 分 全 国 大 会		江 差 連 分 会	B1、カラー		500		

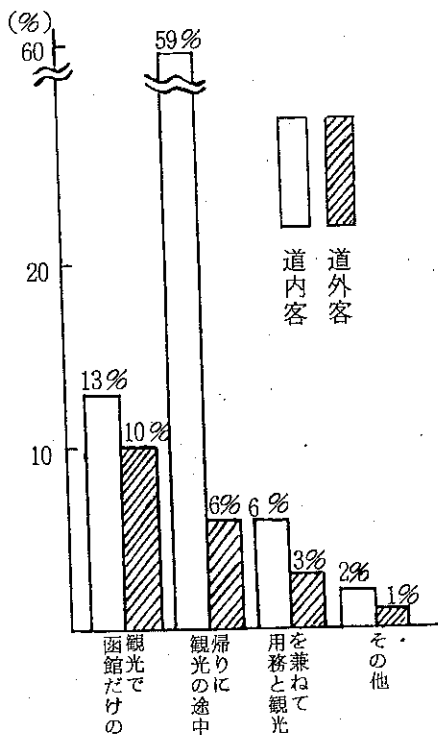
※ 一部55年度以前に製作されたものも含む。

# 来函観光客アンケート調査結果（昭和55年度）

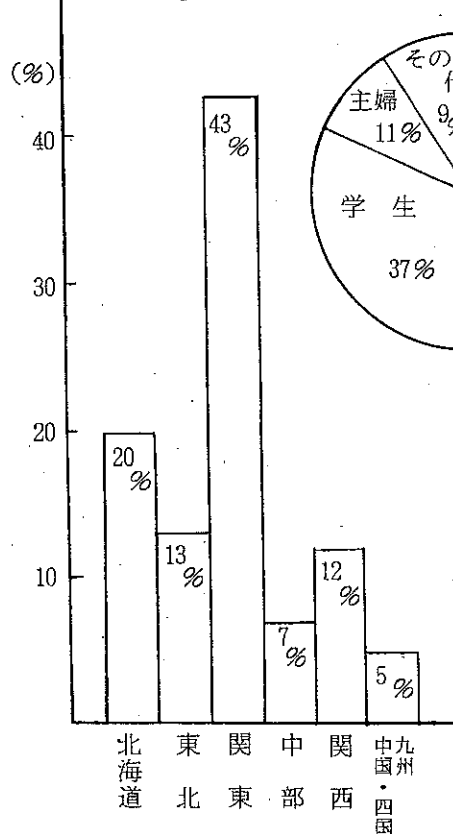
回答者（性別・年代別）



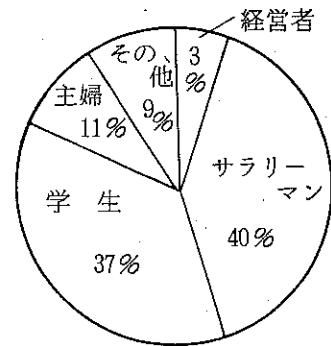
立寄り別



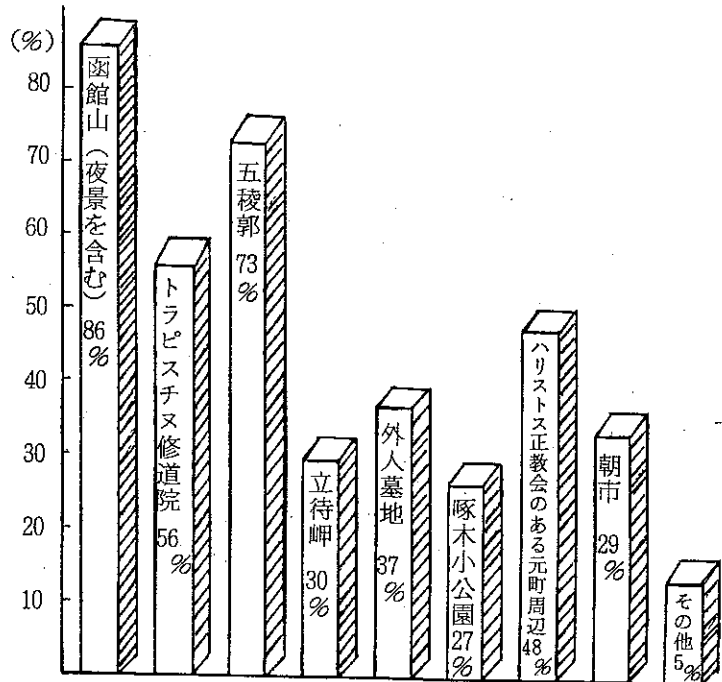
地域別



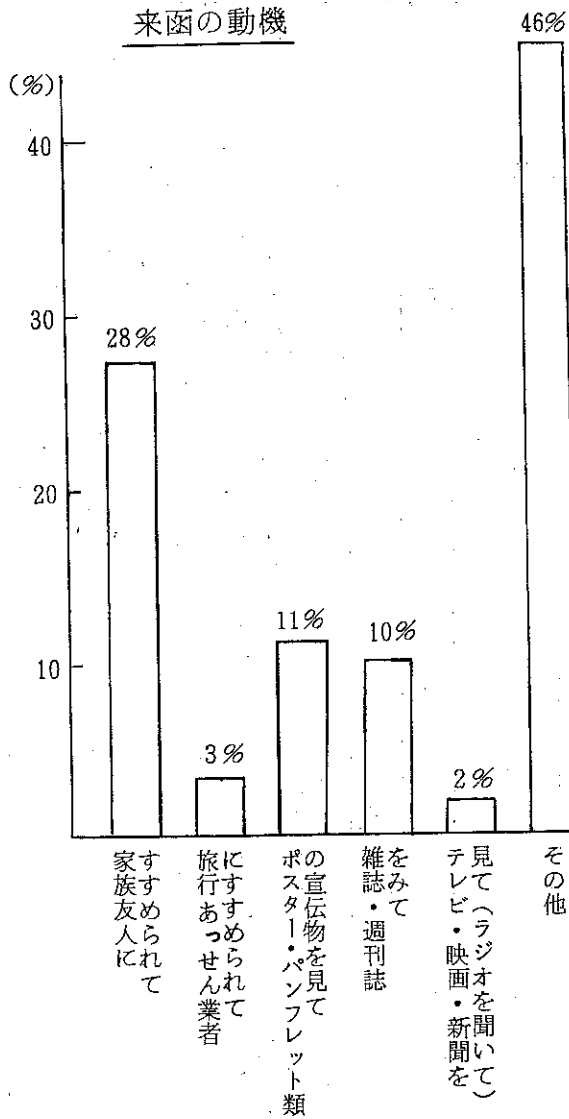
職業別



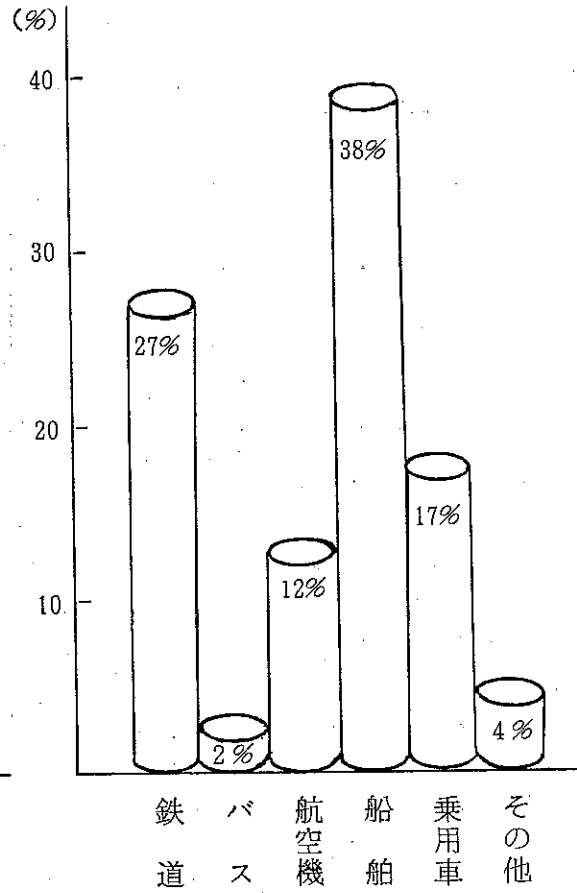
主にみたところ



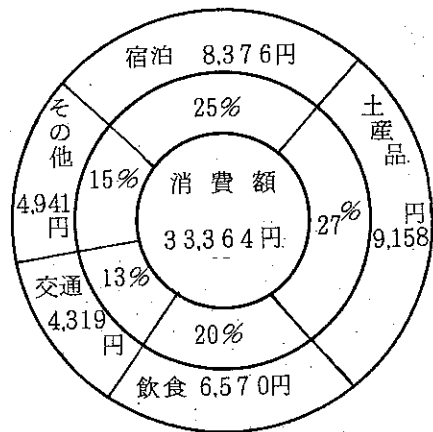
来函の動機



利用交通機関別



1人当り消費額



宿泊・日帰り別

宿泊 70%				日帰り 30%			
サラリーマン	学生	主婦	その他	サラリーマン	学生	主婦	その他
45%	33%	9%	9%	33%	48%	3%	7%
経営者 3%				経営者 3%			
農漁業 1%				農漁業 2%			
購入土産品				購入土産品			
木工彫品	海味加工物	乳製品	菓子類	装飾用品	その他		
12%	23%	24%	27%	8%	6%		

観光客の函館に対する感想

